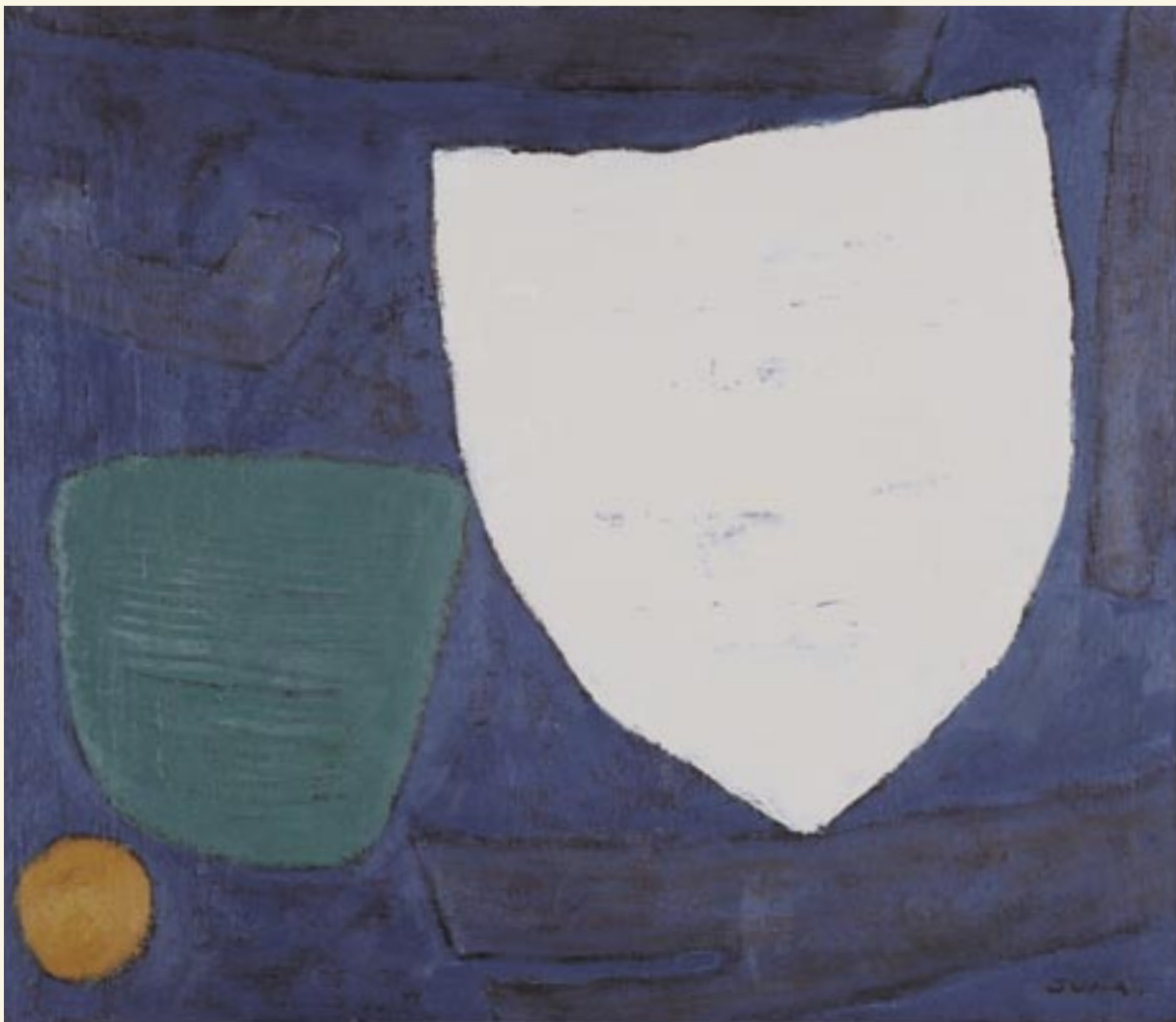


愛媛大学教育学部

第 109 号

同窓会報



愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学教育学部総務係室内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-8304

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp



賀春
元旦

愛媛大学教育学部同窓会役員一同

顔



同窓会副会長
高橋 治郎
(昭四八卒)

今年の干支は、庚寅です。ですから、今年の顔は「寅」ということになります。昨「丑」年の晩夏、自民党から民主党へと政権が交代し、「無血の平成維新」とやらで政権の顔が「鳩」へと変わりました。民主党は、マニフェストで教育改革を謳うとともに、国民生活を第一とした「友愛政治」を行うと明言しています。閉塞感漂う中で生活している私たち国民は、将来への希望がもて、毎日が楽しい社会となるよう祈るばかりです。
さて、寅(虎)にしろ、ライオン、熊、ゴリラ、ハイエナ、など哺乳類は赤ちゃんのときは非常にかわいらしく、誰もが抱きたくなる愛らしい顔形をしています。これが成長するにつれ野性的なごみを持つようになり、近寄りたくない動物

となります。食うか食われるかのきびしい自然の中で生きてゆくために顔形が変わるのでしょうか。

顔といえば、実は十一年前の愛媛大学開学五十周年や昨年の六十年記念行事のため、戦前・戦後から昨年までの卒業生関係の集合写真を見てのことなのですが、時代とともに学生の顔が変わってきていることに気付きました。同じ二十歳代前半、いやむしろ師範学校時代の方が今日よりは二、三歳若かったのではないかと思うのですが、師範学校時代の学生の顔の方が明らかに大人びています。クラス単位の写真や卒業写真では行儀良くカメラ目線となつていますが、友人との五人前後の写真では腕組みをしたり、目線も様々で横を向いたり、斜め前方を見るなど、様々なポーズで写っています。しかし、顔は「将来を担う教師になるぞ」という顔をしています。

ものは試しと、幕末から明治維新に活躍した若者の写真を見つめますと、こちらも負けず大人びた顔をしています。外国での集合写真でもその国の壮年以上の人たち

ちの顔と遜色ないすっかりした面がまです。一人で写っている写真も、チョンマゲに羽織袴、帯刀姿であれシルクハットをかぶり洋装姿であれ様になっており凛々しい顔をしています。昨年、高知市の某ホテルのあちこちに展示されている明治維新前後に活躍した高知県(土佐)関係者の写真を数多く見る機会があったのですが、どの写真も眼光鋭く隙のない顔、姿で写っていました。もちろん、幕末から明治初期の写真は今の写真撮影とは異なり、かなりの間、同じポーズをしていないとピンボケになりますから、緊張感のある写り方にならざるを得なかったのでしょうか……。

一方、最近の学生の顔はと言えば……、とにかく美男子(イケメン)、美女(昔、メツチェン、今は死語)ぞろい、集合写真はVサインあるいは「イエーイ」のポーズで昔とは雲泥の差があります。セピア色とカラーの違い以上であり、着ているもの、着こなしも数年前と比べても驚くほどの変貌ぶりです。さらに近年、当然知っていなければならぬことを知らなくとも「顔に紅葉を散らす」ことなく「習ってません」の一言、バスや電車、教室の中、人前で憚ることなく「顔を拵える」、飲み食いする学生が増えてきました。時代とともに学生の顔形や氣質が大きく変わり今日に至っていますが、最近はいくら以上速さ

で進行しています。

しかし、教育学部同窓会は、発足以来、その目的を、「会員相互の親睦向上を図るとともに、母校を支援し、もつと教育振興に寄与すること、そして、行う事業として、会員の親睦並びに共助、会報発行、母校の後援、会員並びに客員の慶弔、その他必要な事項」を掲げ一貫した活動を行ってきています。現在、教育学部卒業生は、毎年二百三十人程を数えますが、このことは本同窓会の会員がその人数分増え、組織が強化されるはずのものです。しかし、ここ二十年近くの教員需要の落ち込みと就職難等により、卒業後、同窓会と何ら関係を持たず、同窓生としての恩恵を受けていない会員が増え、組織の弱体化を招いています。

これを解消すべく同窓会のホームページを立ち上げるなど努力し、同窓生へ働きかけています。が、うまくいっていません。同窓生がいての同窓会である以上、全同窓生(全会員)への連絡がきちんと出来る組織でなければなりません。どうぞこの拙文を読まれた同窓生は、住所変更を連絡していただかない会員をご存じならご一報ください。

母校の顔としての同窓会を強化し、同窓生へ様々な情報を発信してゆきたいと考えています。特に二年に一度の同窓会懇親会に参加が少ない若い同窓生層に。本年も同窓会をよろしく願います。

目次

表紙	宮川淳一郎
絵	元愛媛大学教育学部教授
題字	菊川 國夫
「顔」	(1) 同窓会副会長 高橋 治郎
心響	(2) 同窓会副会長 高橋 治郎
「繋がり響くもの」	替地 和人
「学部は今」	(3) 「研究室訪問」山崎哲司先生今日は「教育学部から教育の現場へ」就職支援と進路状況……魅力的な話し方講座(2)……表紙絵「SUBUNE」について
職場便り	(11) 宮川淳一郎
「貴重な経験」	新居浜・泉川小教諭 森本 正樹
「自分軸を育てるために」	伊予・北伊予小教諭 向井 由奈
「これまでの歩みと今後の自分」	宇和島・三浦小教諭 石丸 里佳
「思いやりによって支えてもらった」	これまで 支えたい「これから」
今治・西中教諭 福井 智裕	
「桜梅桃李の教育を」	小笠原由衣
「心に残る出会いとともに」	西宇和・三崎中教諭 大石 友紀
「放送最前線にあつて思うこと」	愛媛CATV報道部員 栗林 賢一
会報の送料納付について	(13)
愛媛大学開学六十周年記念式典が挙行された	(18)
愛媛大ミュージアムオープン	(18)
文芸	(19)
川柳	栗田 忠士

繋がり響くもの

替地 和人

(昭四九卒)

今、教育実習生の総合所見を書き終えて物思いにふけています。

実習生の言動を振り返りながら、若いときの思いが私の教育活動を支えてきたと感じている。いろいろな人との出会いのおかげで今の私があると思っている。そのときどきの恩師の私にかけてくださった思いを今の先生方へと思わずにはいられない。

四回生の附属小学校の教育実習のときに、公立の小学校を訪ねる一泊二日の研修旅行があった。そのとき訪ねた「美川西小学校」で再会した恩師を頼って、押しかけ実習に行った。今思えばいぶんと無茶な申し出であったのだが、恩師も校長先生（同級生の父君であった。）も快く受けてくださった。寝袋を持って教員住宅の空いているところに何日間か泊めていただき、子どもたちと過ごした。正式な実習ではないので、教壇に立つことはなかったが、今の中学生の職場体験学習よろしく教師の一日を参観させていただいた。あの時の現場をもっと知りたいという思いと、それに応えてくださった先輩の温かい思いに熱くなるも

のを感じる。管理職になって、そういうことを受け入れることがいかに難しいことがよく分かってくると、なおさらその感が強くなる。私の知らないところで、いろいろ苦労をかけたのではないかと思われる。

その後、新規採用のときの校長先生であった「大野利喜太」先生の縁で、美川村の中学校に五年間勤めることとなる。最初「仕七川中学校」と聞いた

ときには、位置さえも分からず、美川村と聞いて小躍りしたのを覚えている。仕七川中学校は松山管内大会の会場校であり、「連帯意識を育てる教育」のテーマのもと研修まった

だ中であつた。全校生徒数以上の参観者が来るということで、日々研修の毎日であつた。私も国語科で「ウミヒコヤマヒコ」の公開授業者となり頭を悩ました。学校近くの教員住宅まで持ち帰つての研究協議が続いたが、苦にならな

かつた。結局、このときの中学一年生の学級担任を中学二年、三年と続けて務めることになり、彼らにとつては中学時代の学級担任は私だけという事で申し訳ないこ



心響

とであつた。一学年一クラスの構成人員も変わらない学級で、仲のよいクラスであつた。連帯意識が育つていたのであろうか。

大野利喜太校長先生の思い出の中で、何をよく思い出出すかという校長室にかかつていた言葉である。「鋭さも鈍きもともに捨てがたし、鑿と槌とに使い分けなば」という言葉であつたと記憶している。当時は宿直制度があり、校長

先生に頼まれて年末・年始の宿直を何日か続けてしたことがあつた。男の独身者は私一人であり、校長先生は、家庭のある男の先生

には年末・年始をゆつくり家という配慮ではなかつたかと思われる。私は宿直手当はいただけ

の子どもたちと正月遊びができるということ、快く引き受けた。校長先生は、毎晩宿直室に通つてくださり、いろいろ差し入れてくださったり、教育談義に花を咲かせたりと気を遣つてくださった。「ええか、替地先生。鋭いもので釘を打とうとしても、なかなか当たらず困るものよ。逆に鈍いもので穴を掘ろうとしても同じことよ。適材適所というてな、

鋭いものは鑿にして穴を掘り、鈍いものは槌にして釘を打てばえんよ。ものごとがうまくいかんときは、逆にしとるのかもしれない。」大野先生の温かいゆつくりした語り口が耳の奥に残っている。

河野小学校への異動で同窓会の世話をするようになって以来、大学当時のことをいろいろ思い出すようになった。大学とのつながり

もでき、キャンパスにも足を運ぶようになった。大学時代は「軟式庭球部」に所属していたが、テニスコートの周りも変貌している。国語国文の会にも所属していた

が、隣の児童文化研究会にもよくお邪魔していた。夏休みに「佐々木連小学校」であつたサマースクールにもついていた記憶がある。新しい学力観ではないが、興味・関心は二重丸であつた。

とにかく、若いころに取り組んだことは、自分の教育活動の原点である。思い出すと元気が湧いてくる。がむしゃらに突っ走つた日々であつたが、そこに支えてくれた友や恩師との不思議な繋がりを感ずる。あと二年半の現職であるが、原点を大切にし、次の人たちに繋がり響くものを求め続けながらいつしよに歩んでいきたい。

791-8036 松山市高岡町 八七一七

- 絵手紙「絵手紙で心豊かに」 二宮 亮二
- 俳句「句集『春夏秋冬』より」 加藤 敏史
- 短歌「茅の輪」 北岡 實栄
- 短歌「亡夫を偲びて」 石川 富代
- 水墨画「心象風景」 渡部 平人
- 先輩を偲ぶ 上甲 修
- 故「森岡 数栄」先生(十一)
- 明治生まれの国際派 「合田亀太郎」先生
- 叙勲・受賞 仁木 省三
- 上岡治郎と和田重次郎 (25)(24)(23)
- 同期会 石丸 保
- 「全員米寿に向かう」愛師二十二同期会
- 「青玄会総会について」安永 眞敏
- 「関東昭王会の集い」伊藤 始
- 「平成二十一年度の『五師会』」 山上 亘子
- 今、教育に思うこと (29)
- 「新採二年間の思い出」小野植元 幸
- 学部トピックス (30)
- 「坂の上の雲」のまちづくり
- 「タイから」憧れの シンポジウムを開催
- 愛大教育学部へ三名の留学生 敬 弔 (32)(32)(31)
- 原稿募集 (29)(32)
- 放送大学第一期人学生募集
- 同窓会への寄付者
- 会報送料送金者名
- 朋友会館の利用案内 (22)(15)(32)
- 結婚相談
- 「愛媛大学開学六十周年」を記念して
- 愛媛大学の「ブランドマーク」「ロゴタイプ」及び「マスコットキャラクター」が決定 (32)(33)(33)
- お知らせ
- ※お詫びと訂正

学部の今

研究室 訪問

理科研究室

山崎 哲司先生今日は

十月の下旬、朝夕めっきりと涼しくなり秋の風情を感じる午後、山崎哲司教授の研究室を訪問しました。先生は現在、教育学部副学部長、実習カリキュラム委員会委員長等の要職に就かれており、ハードな毎日をお過ごしの中、時間を調整して頂き、次のようなお話を聞く機会がもてました。

フレンドシップ事業(支援活動)について

元々は平成九年に文部省からのフレンドシップ事業の提唱があったのスタートでした。愛大教育学部としては翌年から始まりまし



た。当初は、数学の北川先生が学部全体へ熱心に話しかけたのですが、当時はなかなかアイデアが無く、先ず、初めての事業として、いろいろな学校に学生を向かせた。本格的に私たちが中心になって活動し始めたのは、平成十七年頃からです。フレンドシップ事業を地域連携実習という言い方にしたが、学生が着実に活動して

た。当初は、数学の北川先生が学部全体へ熱心に話しかけたのですが、当時はなかなかアイデアが無く、先ず、初めての事業として、いろいろな学校に学生を向かせた。本格的に私たちが中心になって活動し始めたのは、平成十七年頃からです。フレンドシップ事業を地域連携実習という言い方にしたが、学生が着実に活動して

先日の愛媛新聞にも掲載されましたが(平二一・九)非常に現場からのニーズが高まっているとのこと。しかし、この活動も大学近郊の活動対象ということ、中予地方に偏った活動でしたが、応用実習を引き受けた学校の先生方からの声もあり、地域連携実習に関する内容を紹介することで、県下一円にこの活動の認識も高まってきました。また、それらの声もあり、平成十九年度から教育実践体験学習(ふるさと実習)が生まれてきました。

今年で三年目の「ふるさと実習」ですが、そのねらいの一つには、お世話になった故郷に帰ると言うこともありますが、もう一つのねらいは、地域社会は今若い力が不足しているとか言われているので、故郷へ帰った学生が、故郷に多少なりとも貢献できるといふことも考慮に入れ「ふるさと実習」は故郷で考えた次第です。また、大学の空き時間を有効活用することとは不可能に近いので、地域連携実習として位置づければ、少しは手助けにならないかなということもあって、このような形で実施したので

実施するに当たっては、全学年一斉にすると、提供する側は非常に窮屈になってきますので、学年によっても、また前期、後期でも時間帯を違えれば効果的な活動が

出来るかと考えて実施しています。

気をつけなければいけないことは、学生が現場の先生だけの下請けの仕事をするようになるのではないかと危惧していますので、こちらから、本格的に活動する際、方針を明確にしておいて「子どもに直接関わらない活動はおことわりする。その活動には子どもが必ず関わっていること」を条件に、フレンドシップ事業の申し込みを受け付ける形にしています。

地域連携については、ふるさと実習、わくわくチャレンジサタデー、その他趣旨に合う活動の申し出があれば、臨機応変に許可することもあります。

しかし、不慮の事故があったりします。保険という問題が出てきます。そこで、受け入れ側も安心して引き受けられるように、その点についても努力していきます。学生に対して、単なる参加ではなく、実習報告書を提出するという義務をもたせ、実践報告をまとめさせることにより、何を学んだかということを意識し、反省し、教育学部生として自分を見つめ直す機会をつくらせるような形にしています。

学生を送り出して試みるの県下の教育事情は

現在、全県下からの申し出があり、多方面への広がりが出てきました。夏休みについて言えば、大

学周辺だけでなく東、中、南の県下一円に行ける環境が整ってきたのは、学校現場が、学生が来ることに違和感を覚え無くなってきたようです。フレンドシップ事業を始めた十年、十一年代の頃は、そのようなことが強かったものです。学生が行きますと、いろいろな拒否反応があって、学生が何故来るのか、何かあったら困ると、お願いに行ってもなかなか受け入れてもらえなかったのですが、やはり、学生の活動が評価されてきたということもあり、その後は徐々にではありますが多方面から声がかかってくるよになりました。多くの学校の声や学生の声も含めて聞いてみると、やっぱり「単に手伝いにきてもらった」ではなく、「来てくれた」という風な形で考えてくださる学校が多くなってきました。

ただ一方で、やはりほんの一部ですが、「学生が手伝いに来た」というような感じで見られているところもあります。このような点があり、凡てが満足出来るようなことにはなっていません。それも、もしかすると現場では、大学側が学生に地域連携学習で行きなさいという風に指導しただけで学生を送り出すだけで、大学が投げつけていると思われているなどの誤解を受けている部分があるかもしれません。地域連携実習で行か

せている以上は、こちらもその活動で学生が育つことを期待しているし、単にお手伝いではなくて、できるだけ育てていくという考えで引き受けて頂けることを前提としてお願いをしています。何故かといえばそういうことがあったときには、大学の責任に於いて活動を中止することになっています。

特に最近嬉しかったことに、大洲農業高校からの要請があったことです。昨年から働きかけがあり、地理的な関係でどうかと心配したのですが、今年も夏に学生を募集しましたところ、地元の学生を中心にして多くの学生が、夏休み積極的に参加をしてくれて、作文や教科の指導に当たり、学校から非常に感謝されました。やはり、高校生と大学生とでは、「年齢差が近い」こともあり親近感が湧き、気軽に質問ができたり、高校生にとつては、このような学生になりたいと具体的な目標が芽生えたりと、生徒は夏休み積極的に学習に取り組んだようです。

高校側の先生は、何とか生徒の学習意欲が少しでも湧いてくれたらとの強い思いで計画したことが、現実には期待以上の成果が上がったとのことで、誠実にお世話頂いた大洲農高の先生方のご努力に感動しました。

今後、学校現場での生徒のことで新しい試みをする場合に、専門

性に固執することなく、愛大に入学してきた学生ですからある程度対応出来ることが多々あるのではと考えています。学生と協働することで役に立つ部分があると思われたら積極的にいろいろと声を掛けて下さると、私たちも思ってもいなかった新しい事業に発展することもあり、必ず相乗効果が出てくるのではないかと期待しています。だから要請を沢山いただければと願っております。学生も自主的に活動しながらきちんとしなければいけないという意識が芽生えてきて、勝手に突飛な行動をしながらという意味では、凄く安心して学生を実習に送り出すことが出来ます。

今の学生気質について

この実習が盛んになるにつれて、昔はおとなしい感じだった教育学部の学生が目に見えて活気が出てきたように感じます。

今希望していることは実習に参加したとき、今の若さを十分發揮して、少々失敗することや、少し恥を掻くことを恐れず積極的な活動をしてもらいたいことです。

授業を受けに来て、教室で着席する際、前の席に座ろうとしないので、後ろから席が埋まってきく傾向があります。これについても、前の席から座るようにと指示、指導を繰り返していくと、それがだんだん解消してくることからも、

経験を繰り返していく内に自分にとって、何が役立つのかを理解していくことで、この消極的な態度にしても解決出来ることに気が付くようで、その手法も連携実習を通して身につけていくようです。

卒業生への呼びかけ

これからは、大学とその卒業生とを繋いでいく努力を私たちはしなければいけないと考えています。卒業生の力というのは卒業生を大学の力として大事にするとは凄く重要なことです。学部によつては既にそれがうまくいっているところもあります。これまで、教育学部はそのような努力をしていますが、私たちが今努力をしなければ繋がらないの思いが強いです。

特に、教員になった人は今忙しくて大変だろうとおもうのですが、今大学で現場に於いて生きて働くであろういろいろな活動をしていることを知って欲しいのです。卒業生同士、現場の仲間違いだけでもかまいませんから、私たちが現場を訪問するときに、遠慮無く声を掛けて頂くと大変嬉しいです。もう一つは、大学も変化してきていると言うことを知ってもらった上で、また大学に立ち寄ってもらって、卒業以来、大学で学んだことを基に、現場に出て生

かし生かされた豊富な経験を大きな財産としてお持ちですから、大学の先生と学生を交え、そのことを伝え合うよい機会をつくりたいものです。今は、免許更新制などがありますが、このような形で大学を活用してくれるといいのになあと思っております。卒業すると、大学との関係はそれで終わりではなく、一緒にその後の経験を蓄積していることをもとに、研修という形でもつてお互いがうまく交換出来ると思います。

卒業生は大変な現実の中で超多忙ですが、忙しいと言うことはどの職業にあつても同じですから、急がしい理由にして、なにもしないと言うことはいけませんね。忙しい中でも忙しいと言わずに何か自分にとって出来る範囲で少しでも手伝いましょうと言うことを心がけなければいけないかなあと思います。

卒業生はそれぞれの現場で大変だと思いますが、忙しい中で何が出来るか。本当にどうにもならなかったら、何かパレードの法則のように、重要度の高いものからきちんと順序を付けて対処、処置が出来るようにそれぞれの立場で頑張つて欲しいものです。

外部から見ると、大学はなんとなく敷居が高い雰囲気があると写るようですが、そのようなことはありませんね。大学側としては、

その認識打破のために、こちらからも積極的にいろいろと情報を発信していくことが必要ですね。今の地方の大学は、特に地域に根ざさないと生き残れない現実がありますね。きちんと地域に根ざした形で地域と一緒に学んでいく、そして発展していくという形を取らないと、道州制が叫ばれている今日、きちんと地域と結びつくことからいえば、その一番最初には、卒業生が頼りですね。

教育学部の場合、卒業生は大部分が教員になって地元に残りまきながら、これからの大学はどうあればいいのかについて検討し討議する機会を多く持てばいいのだと思います。そのためには、同窓会の力に期待すること大ですね。

先生のお話の引き出しは実に沢山あり、有益なお話を聞きながら、ああ、これらの話は学生や、若い先生方に聞かせたらなあと思うこととばかりでした。アカデミックな研究室に柔らかな日射しが差し込み、爽やかな風が吹き抜ける神無月の午後でした。



教育学部から

教育の現場へ

「理論と実践の往還」を軸にした、
実践・省察型カリキュラムに再構築



理論と実践の往還

教育学部では、実践的に学ぶために様々な実習カリキュラムを設けています。1年次から4年次までレベルアップしながら実習を行うことで、実践力を高めます。

また、理論と実践を繰り返し行うカリキュラム設定で、講義で学んだことを実習に活かし、実習で得たものを省察するしくみが整っています。

●体系的な実践・省察を重視した実習カリキュラム

科目群	教育実習科目群		現代的教育課題科目群	自主参加型実習科目群	
種別	理論科目	実践科目	理論科目	理論科目	実践科目
4年次	実践省察研究Ⅲ	応用実習 他校種実習	教職教養課題特講Ⅲ (課題別討論)	教育実践演習Ⅲ	地域連携実習
3年次	実践省察研究Ⅱ	教育実習	教職教養課題特講Ⅱ (学社融合)	教育実践演習Ⅱ	
2年次	実践省察研究Ⅰ	教育実践体験実習	教職教養課題特講Ⅰ (学校教育)	教育実践演習Ⅰ	
1年次	コース初歩学習	観察実習	特別支援教育概論	実践入門	

表紙絵について



作者

宮川淳一郎

「SUBUNE」

これまで、マンネリ打破を念頭に制作を続けてきた。

表現も、写生を中心とした具象画から、だんだんと抽象画が多くなってきた。私には幾何学的抽象よりも自然物から触発された有機的抽象の方が性に合っている。抽象画は対象にあまり束縛されずに自由に創造できて楽しい。

この作品は、私の所蔵する海の漂着物の中では最大のお宝、丸木舟に感動を受けて描いた。昔、宇和島に漂着した奄美大島産の丸木舟（スブネ）で、タブの一本刳舟である。素朴でたくましく、飾り気のない大変美しい造形物だと思う。

物質的な富を際限なく追い求めようとする時代にあって、簡素、単純をテーマに生活を見直しなさいと、この素舟は私に強いメッセージを発信して止まない。

略歴・(現在も含む)

昭39 愛媛大学教育学部卒業。
平11 宇和島市、北宇和郡小中学校勤務後退職。以後、造形活動中。

〒798-0012 宇和島市和霊町
一八五三二

就職支援と進路状況

ガイダンス

進路や就職を強力にバックアップする「支援サポート体制」が整っています。

・・・ 教員を目指すみなさんを支援します。



教員採用試験対策講座

- 5月：教員による面接・小論文指導、フレッシュな先輩現職教員からの体験等
- 12月：採用試験に合格した学生による合格体験報告等

教採相談室の開催

6月から採用試験直前の7月中旬の間、長年教職に就かれ、採用人事にも関与した経験を有する教育学部附属教育実践総合センターの客員教授による「教採相談室」が開催される予定です。

教員採用模擬試験

全国規模の教員採用模擬試験を学内で受験できます。

・・・ 企業・公務員を目指すみなさんを支援します。



企業等就職対策講座

就職活動について、就職内定者との懇談形式により、直接具体的な話を聞きます。

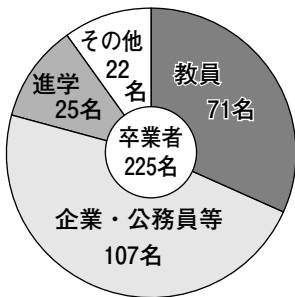
キャリア講座（プレ・ビジネススクール）

就職活動やビジネス基礎能力の実践トレーニング講座。就職活動にあわせたスケジュールで、人材育成専門の講師が担当します。

インターンシップ

前期授業で事前指導を受講した後、夏期休業中に1～2週間の就業体験を行います。教育学部では、全学年を対象として実施します。

平成20年度卒業者の進路状況



過去3年間の主な就職先

積水ハウス、大進建設、ブルボン、日本食研、再春館製薬所、三浦工業、三菱電機、今治造船、福助工業、佐川印刷、セキ、四国ガス燃料、愛媛新聞社、広島ホームテレビ、日本海テレビジョン放送、愛媛朝日テレビ、エス・ピー・シー、ジャパンケーブルネット、NTTデータ、NECシステムテクノロジー、エアーニッポン、日本通運、ヤマダ電機、東神実業、フジ、メディコ21、アブル、愛媛日産自動車、みずほ銀行、伊予銀行、愛媛銀行、四国銀行、中国銀行、山口銀行、三菱UFJ証券、野村証券、第一生命保険、全日空ホテル、寺小屋グループ、英進館、中央出版、ELBEC教育図書センター、東京リーガルマインド、ヤマハ音楽振興会、JAえひめ中央、近畿日本ツーリスト、毎日コミュニケーションズ、日本セレモニー、大学生協、郵政グループ、国家・地方公務員、警察官、消防士、社会福祉施設

教員就職者は、地元の学校の教員だけでなく、東京・神奈川・大阪などの大都市部の学校へも活躍の場を広めています。

「愛媛大学教育学部サポーター制度」より 魅力的な話し方講座（第二回）

ダイキ株式会社代表取締役社長
佐藤 一郎氏講座より

梅雨の晴れ間から明るい日差しが射す午後、本学部卒業生（昭五六年卒）であるダイキ株式会社代表取締役社長 佐藤 一郎氏をお招きして、良き社会人を目指す熱心な学部学生のために、右記標題について人間味溢れる有益な講義をしていただきました。

講義内容は、I 企業教育の原理 II Communication の位置づけ III Communication は相互依存と主体性必要 IV 数値をコミュニケーションして解く V 経営を公式化すると大きく五つの柱立てをされていて、学生によく分かるようにと、P.C. プロジェクターを活用した明快なプレゼンテーションによる講義でした。



聴講した学生さんは、時にはユーモア溢れる話に笑い声が起り、時には企業の厳しさに真剣に耳をそばだて、時には佐藤氏に指名されることで緊張感を持つたりと、一〇〇分近い講義でありましたが、あつと言う間に終わった感じが、学生も実に充実感に溢れた顔をしていました。

講義内容を紙面の都合上講義概要としてここに紹介します。

【講義概要】

私の人生の指標としている父の言葉に「自分が通ってきた道は決して無駄にするな」があります。私自身教育に携わった経験は私の人生にプラスに働いています。自分に課せられたものに悩み、苦しみ、嫌なことの積み重ねであつても、それが次へ生かせることにならるのであればこれにこしたことはありません。

過去に少し道が違う経験でも逆にプラスに変換できるもので、教員を経験したことが、いまは企業



教育においてその違いが明確に認識でき生かされています。

我が社では、新規採用者対象に新社会人であるためにということ、その指導の始めに、コミュニケーションを指導しています。

当学部の教育目標に「人間関係能力を身につけ」とあります。また、壽学部長さんのメッセージ文中に「汝自身を知れ」「教育とは一人間の中に眠っている潜在的能力を引き出す営みです」。は、今日私の講義内容と奇しくも一致するものがあり、後で触れる「自立」と言うことに関連させてお話しさせていただきます。

教育は別に学校の世界だけではなく、企業や家庭の世界にも十分存在するものです。そこで、先ず自分が体験した学校教育の視点か

ら、企業が学校教育と違う点を、六つの観点に基づき話をしたいと思えます。それを比較表にしたのが次ページの表1です。

I 企業の原理

1 企業教育と学校教育との違い

教育の目的は、「教養（理解力）を身につける」ことに対して、企業の目的は「行動力を身につける」こととなります。特にレベルにおいて違いが著しく、教育は「教師にちかづくこと」ですが、企業は教師（上司）に追いつき追い越せになります。大学生が大学院に残って、修士課程、博士課程、助手、准教授、教授になって、追いつき追い越すことはまれであります。企業が、企業での職場教育は、指導者を追い抜く自己育成に繋がらなければなりません。すなわち、教育スタッフの使命は、自分がその技術分野で、持っている技術以上に、本人が追いつき追いついていくような自己育成能力を増やしていくことを「デイベロップメント」といいます。遅生き生き残っていく企業には、全ての社員が上司を超えようと努力しており、社員レベルが現状より低くなっていく企業は危うくなっています。

対象については、学校では個々は余り関係なく平均点を上げることであることに対して、企業は集団の平均を上げるのではなく、日本一、世界一の企業のエキスパートをつくることで、一人一人の能力を育成していくことであり平均点は関係ありません。また、期間については、教育は小、中、高の十六年間でありますが、企業は平均二、三年ほどでの転勤を十五回程度繰り返しての二十年以上の勤務になります。知識の比重は、学校では学習全体の八割が知識ですが、企業では全体の三割ぐらいで、それより必要なのは、経験六割が必要となり、一割が夢を実現するビジョンを持ち続けることです。自分が働いているのは何のためなのか、自分は将来何を目指してどうあるべきかの夢を持って働くべきです。

経験は、我々企業者から見ると、地域によって異なる言葉、一人一人の顧客の思い、売れ筋等違ってするので、一カ所に止まっているだけでは真の経験はできません。考え方については、学校はほぼ平等に教育しますが、企業は公平にです。例えば、二人の兄弟にお菓子を分けるとすると、学校的な発想では平等に与え、企業的な発

表1

企業教育の原理 学校教育との違い		
	学校教育	企業教育
A 目的	教養(理解する力)	技術(行動する力)
B レベル	教師に近づくこと	教師(上司)を追い越すこと
C 対象	集団 (平均点の向上)	個人 (卓越した人を一人ずつ育てていく)
D 期間	6+3+3+4年 =16年間	1.5年ずつ×13回 配転=20年間
E 知識の比重	全体の8割 (体育、徳育各1割)	全体の3割、 経験6割、 ビジョン1割
F 与え方	ほぼ平等に	公平に

想では体力、お手伝いの具合等を考慮しての公平に与えることとなります。

次に、全国中堅中小企業採用実施で、企業採用担当者が新規採用者に要求する能力のキーワード上位三位までを挙げると、一位は、「コミュニケーション能力」二位が「健康、体力」三位が「責任感」であり、中途採用で重要視する点として、一位「コミュニケーション能力」二位「責任感」三位「モラル、マナー常識」になつていて、このように会社で一番重要視しているのは「コミュニケーション能力」です。

力であることがよく分かります。では、コミュニケーション能力とはどういうことなのか、どうすればコミュニケーション能力が身につくのかについて、説明します。

ダイキ幹部の評価基準十項目の中にも「コミュニケーションができる」↓「ネゴシエイションと対話に時間をかけることができる」があります。このように、「企業においてもまた社会人となつてからみずつと、このコミュニケーション能力は絶対必要である」と言うことです。

そこで、「コミュニケーション

の位置づけについて」から話を進めます。

II Communication の位置づけについて

Communicationの意味

- ① 上から下への意思疎通(命令、通達)
- ② 下から上への意思疎通(報告、稟議、提案制度、会議、モラル・サーベイ)
- ③ 横との意思疎通(会議、委員会制度)

の3種類があり、個人的な接触が中心であります。通し方には技術・テクニックが必要でもあります。上から下へは命令とし演繹法で意志を通し、下から上への疎通は帰納的な方法で行われます。

コミュニケーションでは、個別対応しないとコミュニケーションにはなりません。これは、通達のように、一方向だけではコミュニケーションにはならないのです。

そのために、必要な条件としては、以下ようなことが挙げられます。

III コミュニケーションには相互依存と主体性が必要

1 相互依存とは

- (1) 組織運営の仕組みはどうあるべきか
- ① ◎インサイドアウト……

個人↓人間関係↓マネジメント↓組織

② ×アウトサイドアウト：組織↓マネジメント↓人間関係↓個人

②のように、組織を良くしたら個人が良くなるとは言えません。やはり、個人から総てのスタートになります。個人が良くなれば組織も良くなっていくものです。

そこで、

- (2) 個人↓人間関係をどう高めるか？
- ① 信頼関係(阿吽の呼吸はローコスト)、不信関係はハイコスト
- ② ニーズと結果のずれが起ころ

対策として、行動、態度を変える・プロセスを変える・ものの見方、考え方を变える があります。

③ 依存とは……貴方を通してものを見る⇨貴方が認めてくれないければ自信が持てない。

相互依存とは……共に協業し合う⇨チームワーク(×助け合う、○自分の役割は自分が独力でする)

ステップとしてはまず、依存⇨自立⇨個人レベルを上げる。個人

の信頼性を高めた自立、そして、自立⇨相互依存⇨人間同士が信頼関係が生まれる。

自立した人のみ、相互依存に行けるのです。自分との約束を守れない人は、人との約束は守れません。したがって、依存⇨相互依存はあり得ないのです。コミュニケーションをとるためには相互依存までもっていくためにの前段階の自分しかないのです。

人間関係ができる(相互依存状態)とSynergy(相乗効果)即ち、1+1>3以上のものが生まれます。強いと言われるチームには選手一人一人が自立しています。そして、相互依存までいつているからSynergyが生まれてくるのです。組織も一緒です。相互依存の状態に合わせなければならない主体性があるのです。

主体性⇨どういう状況におかれても自分の価値観に基づき、自分の反応を選択する力

その反対に反応性⇨状況によって起きた感情(気持ち)に基づきストレートに反応すること。即ち、

×反応性⇨(感情)反応
刺激 刺激
○主体性⇨反応を選択
⇨(意志決定)反応

反応の水準 (表2)

事 象	反 応 の 内 容				
	高い水準		低い水準		
	直 感	行 動	直 感	行 動	
眠 い	生きている 実感	もうひと息 がんばろう	不健康	すぐ眠ろう	
疲れた	本当に価値が あったのか	もっと合理的にやろう	われながら、 よくやった	早く休養し よう	
人に会った	エチケット	ご挨拶	面倒	気のつかぬ ふり	
ミス発生	何が原因か	制度の修正 と追加	怒りと不安	叱責と激励	
数字の 変化	売上減	対策のミス	原因調査 対策変更	現場管理職 のミス	怠惰評価
	売上高増	資金繰り楽	その標準化 投資拡大	自己満足	自画自賛
	在庫高増	管理不徹底	死に筋退治	利益増加	多様化時代 でやむをえ ない
	客数減	危険	根本手術	切替え策	単価の増大

・自覚・想像力・良心・自由
意志 etc

このように、自分で反応を選んだとき自己責任が発生します。

自己責任 (responsibility) ↓ 反応 (response) を選択する能力 (ability) のことは、他人の言動が自分を傷つけるのではなく、自分自身がどう反応するかによって自分自身を傷つけます。この主体性がないと、真のコミュニケーションは永久にとれないのです。そこで、反応の水準としての例を表にすると、

表(3)、反応の水準

このように、コミュニケーションをとるためには、相互依存が必要であり、その前には自立すること、それに加えて主体性があること、この二つがなければ人とのコミュニケーションはできないのです。

私の学校教員時代の経験の中で身につけたものに、算数・数学的なものの見方、考え方があります。それは、数値とコミュニケーションするということです。それが、これです。(表3)

IV 数値とコミュニケーションして解く

大学で教える経済学は微分、積

分、行列、ベクトル中心ですが、実生活で本当に役立つのは基本的な算数・数学であります。その内「計算」について考えますと「計算」には、エネルギーを要する・くたびれてくるとミスをする・そして数字嫌いになる等が挙げられます。そこで、その問題解決としては、数値とコミュニケーションすれば計算は楽になり、数学嫌いの解消に繋がってくる。営業職にしろ事務職にしろ数字は必ず必要となつてきます。物事を数字に置き換えて判断するということは非常に重要です。計算は多くのエネルギーを要するが、数字とコミュニケーションする能力、即ち、数字と会話する能力を身に付けていくと計算は非常に楽になるということがいえます。その例として、(表3参照)

以上のように、計算においても数字とコミュニケーションを図ればより効率的であり、的確であり、発展的になるかが分かり、前述のII、IIIと深い関連が在ることが分かります。

経営に於いても、数学的なものの見方考え方を応用して、経営にコミュニケーションしていくと、次のような公式化が生まれてきます。

V 経営を公式化する

1 暗算が速くラクにできる10の知恵=コミュニケーションする数字をもってくる。

- 1) 足し算のコツ (足し算は引き算にする)
 $438 + 297 = 438 + 300 - 3$
- 2) 引き算のコツ (引き算は足し算にする)
 $2700 - 596 = 2700 - 600 + 4$
- 3) 掛け算のコツ(1) (5の掛け算は割り算にする)
 $6820 \times 5 = 6820 \times 10 \div 2$
- 4) 掛け算のコツ(2) (隠れた「10」を探す)
 $16 \times 35 = 8 \times (2 \times 5) \times 7$
- 5) 掛け算のコツ(3) (因数分解する)
 $73 \times 67 = (70 + 3)(70 - 3)$
- 6) 掛け算のコツ(4) (同じ数を掛けて割る)
 $16 \times 45 = (16 \times 5) \times (45 \div 5)$
- 7) 割り算のコツ(1) (割り算は掛け算にする)
 $11300 \div 5 = 11300 \div 10 \times 2$
- 8) 割り算のコツ(2) (2つのステップを踏む)
 $810 \div 45 = 810 \div 9 \div 5$
- 9) 割り算のコツ(3) (2つの数を同時に割る)
 $126 \div 14 = (126 \div 2) \div (14 \div 2)$
- 10) 割り算のコツ(4) (仲間を引き込む)
 $720 \div 16 = (720 \div 80) \times (80 \div 16)$

表3

「数学に強い」人とは、物事を数量的に考え、かつそれを覚えておくことができる人です。しかし、皆、この「数字で考える」ことから逃げだそうとするのです。それは、教育に関わる問題が大きいことです。数学や算数の授業では、やり方だけで、何故そうするのかは教えないのです。

たえば、足し算や引き算、掛け算でも、筆算になった途端に下の桁からやれという。そして、答えは上から読む。操作の仕方だけ教えて、ただ計算の正確さを求めたり、いきなり応用をやらせたりする。これでは、算数・数学が嫌になるのも当然です。数字が嫌いな人でも、能力がない、向いていないということはありません。正しい考え方を訓練すれば、誰でも数につよくなれるものです。

そもそも、ビジネスでも普段の生活でも、物事を数量化して捉える。つまり、量的に考えようというところは非常に大事なことです。ところが、多くの人が、単に大きいとか、小さいとかでフィードバックしてしまっています。それでいい加減になってしまいます。そして、記述もできず、意味ある情報

表4

V 経営を公式化する

その1 顧客満足の公式

100円の商品×CS ≧ 100万円の商品×CS
(顧客満足度)
松下幸之助 (パナソニック)

その2 買収の公式

1300円 < 買収予定会社の名刺100枚のコスト
永守重信 (日本電気)

その3 売れ筋の公式

ヒット商品×時間&回数=儲かる
ヒット商品×時間&回数=飽きる
鈴木敏文 (セブン&アイ・HD)

その4 考え方の公式

能力×熱意×考え方=この世で起こる結果
稲盛和夫 (京セラ)

その5 部署(組織)力の公式

- ① 上司の能力10×部下の能力10=100
- ② 上司の能力10×部下の能力5=50
- ③ 上司の能力5×部下の能力10=50
- ④ 上司の能力5×部下の能力5=25

部署力は

①>②>④>③

その6 変化適応(成長)の公式

1×101% = ∞
1×99% = 0でない

を人に伝えることもできなくなり

ます。物事の本質を本当にわか

る。ためには数量化は不可欠であ

ると考えます。

(表4参照)

《その一 顧客満足の公式》

百万円分購入する顧客と百万円購

入顧客に、同じように「ありがと

う」とお礼を言った場合、百円の

顧客の満足度が高い。

《その二 買収の公式》

名刺百枚作るのに千三百円もか

ということですが。

《その三 売れ筋の公式》

よく売れているものは早く飽き

るといふことです。よく売れるか

らと言つて追加生産した途端に、

飽きられて売れ行きがぱったり止

まり、在庫ばかりが積み上がつて、

それまでの儲け場なくなつてしま

う。そこで、重要なのが、危険を

冒さずに利益が出たところで、別

の商品に切り替えるか、それとも

飽きられないように、いろいろな梃

子を入れしながら、引き続き同じ

商品売れるかの判断です。

《その四 考え方の公式》

本気を出せ、やればできる」と熱

意を注入します。しかし、いくら

能力や知識を磨き、根性を鍛えて

も、それを発揮する方向が違つて

いたら、何にもならないどころか

マイナスになります。一流企業で

も頻発している不祥事の大半は、

考え方が違つていることに原因し

ます。また、部下同士でも考え方

が違つていると、内部崩壊の原因

にもなります。

《その五 部署力の公式》

このうち、一番問題が生じやす

いのは、③の組み合わせです。計

算上は五十で②と同じですが、破

綻しやすいのです。部下の能力が

優れていて、上司がそれを制御で

きず、的確な指示が与えられない

と、部下が独断専行を始めて、内

部崩壊してしまふか、せつかく

の人材が伸びずに腐つてしまいま

す。ところが経営陣はちよつと弱

い上司に補強の意志で優秀な部下

を付けがちです。これは、最もやっ

てはいけないことで、私自身身

もつて経験しています。結果的に

は④の組み合わせ以下になつてし

まいます。①の優秀な人材を優秀

な上司に付けると、阿吽の呼吸で、

次から次へと自分から仕事を拡大

発展させていきます。上司は的確

しておくと、九十九%では出会

わないチャンスに出会えるはずで

す。これは我が社の社訓三条にあ

る、「昨日と同じ事を繰り返すま

い。日々新たな工夫を重ね開拓の

心を磨け」を公式にしたものです。

このように数値化するというこ

とも、コミュニケーションの仕

方があり、それによつて行動が

楽になつてきます。人とコミュニ

ケーション行動を起こすとき、是

非ともこのような考えもあるのだ

といういうことを分かつて欲しい

と思います。

以上で私の話は終わります。今

後とも学生の皆様は学生生活を謳

歌され、しっかりとした学生生活

を楽しんで下さい。そして是非と

も卒業までに、よき社会人になろ

うとする自覚をもち、今から明

確な目標を立て、それに向かつて

充実した生活を送ってもらいたい

と、心から願っています。



職場だより



貴重な経験



新居浜市

泉川小教諭

森本 正樹

(平十四卒)

平成十四年三月に大学を卒業してから、早八年が経とうとしています。一昨年、ようやく採用試験に合格し、現在は小学校の教員として、子どもたちと充実した日々を過ごしていますが、卒業から六年に、幼稚園から高等学校まですべての校種で講師をするという、非常に珍しく貴重な経験をする事ができました。また、六年間で六つの学校に勤めながら、たくさんの人に出会い、たくさんの方を学ぶことができました。

大学卒業後、講師としてはじめて赴任したのが、大三島高校でした。右も左もわからず、悪戦苦闘の毎日でしたが、先輩の先生方に

助けられながら、とにかく子どもたちと正面から向き合うということの大切さを学びながら、二年間を過ごすことができました。地域に根ざした学校だったこともあり、地域の方との交流もたくさんありました。中でも、人権問題を

考える会「水曜会」で、人権啓発劇に取り組んだり、全国人権・同和教育研究大会に参加させていただいたりしたことは、自分の人権・同和教育に対する考え方の基礎をつくり、現在の小学校での指導にも生かすことができていると思います。

三年目、弓削高校に赴任しました。弓削では日々野球部の指導に明け暮れました。野球の経験がほとんどなかった私は、技術的な指導はできないので、部員たちの精神的な支えになろうと思ひ、一分一秒を惜しんで子どもたちに接し、毎日子どもたちと一緒にがむしゃらに野球に打ち込みました。その結果、子どもたちは様々な悩み事を私に打ち明けるようになり

ました。その時、野球部の監督だった先輩の先生に、「指導には信頼関係が不可欠。信頼関係を築くには、とにかく時間をかけること。毎日の積み重ねが、子どもたちからの信頼を勝ち取ったんだ。」と言われました。この言葉は、いまでもいつも心にとめて、日々の指導に生かしています。

翌年、講師としての勤め先が見つからず、採用試験の勉強に専念していた私に、友人の父親でもある私立幼稚園の園長先生から、「幼稚園の教員免許を持っているなら、うちで臨時で働いてみないか。」というお話がありました。まさか使うことはないと思っていた幼稚園教諭の免許がいかにされたのです。担任の先生のサポートや通園バスの運転などが主な仕事でしたが、もう一つ、写真係という大切な仕事がありました。その幼稚園は、子どもたち一人一人の写真を大切にし、私は八か月間で約五千枚の写真を撮りました。写真を撮り続ける中で思ったのは、「子どもたちの一瞬の輝きを大切にしたい」ということでした。これは、写真に限らず、教育の様々な場面でも言えることだと思います。

幼稚園の教員もいいなあと思ひ

始めていた三月、母校でもある新居浜西高校から講師の依頼のお電話がありました。幼稚園と高校とで迷いはありましたが、最初の希望であった高校を選びました。自分の専門である世界史を中心に任され、大変充実した日々を送ることができました。

その頃から、幼稚園と高校の間の小中学校の教育にも関心が出始めました。そして翌年、三か月足らずでしたが、中学校での講師も経験し、思春期にある中学生と接することの難しさを実感しました。その後九か月間、小学校で講師をしました。そこで初めて二年生の学級担任をし、子どもたちの中から、個性の原石を見つけ出し、輝かせることのおもしろさ、すばらしさを実感することができました。自分がやりたかったことはこれだと思ひ、その年は小学校の採用試験を受け、無事合格することができ、今に至っています。

小学校の教諭としての経験はまだまだ少なく、悩んだり苦労したりすることもたくさんあります。泉川小学校二年目の今年、六年生の担任をしています。クラスには、個性の強い子どもがたくさんいて、その中に特にこだわりの強

いK君もいます。K君は、自分の思いがうまく相手に伝わらなかったり、先行きが見えなかったりすると、パニックを起こしたり、気分が急激に落ちこんでしまったりします。はじめはその理由やタイミングがわからず、支援に大変な苦労をしました。約八か月間、とにかく焦らず時間をかけてK君と接することで少しずつ信頼関係を築くことができ、K君の行動を予測して支援していくことができるようになってきました。しかし、まだまだ難しい部分がたくさんあり、日々、試行錯誤の連続です。しかしこれも、教師として、とても大切に貴重な経験だと思っています。

まだまだ未熟で力不足な面はたくさんありますが、講師時代に経験した様々なこと、これから経験するもつとたくさんの方の輝か限に生かして、子どもたちの輝かしい未来の実現のために、全力で教育活動に取り組んでいきたいと思ひます。

☎ 792-0884

新居浜市神郷
神郷一七一九

自分軸を育てるために

図画工作科とともに



北伊予小教諭
松前町
向井 由奈
(平九卒)

某雑誌の特集記事「氷河期世代入社十年目の分かれ目」に取り上げられていたある会社の女性社長さんが、次のようなことを言っています。「わたしの世代は、給料や肩書きといった他人と比較して自分の価値を測る他人軸ではなく自分の興味があることができていくか、自分が社会に役立つ仕事ができているかといった自分軸の価値観を大切にしている人が多いのかもしれない。」氷河期世代、十年目といえ私です。今年度、十年目研修で、様々な研修をさせていただいています。確かに私も、「自分軸」に価値を置いて仕事をしている一人であると思います。十年目研修を受けたことで、その価値観を改めて大切に感じます。しかし同時に、これからも自分が成長し続けるための課題についても、いろいろと考えさせられます。軸を太くしたり補助線があつたりする必要も特に感じている今日

この頃です。さて、今年度私は、図画工作科の全国大会に参加させていただくことができました。現在勤務している松前町立北伊予小学校では、図画工作科の研究を進めています。新学習指導要領が示された今、これからの図画工作科が目指す方向を確認し、本校の研修に生かすための様々な知的材料をもってかえる意味で、大変重要な役目です。ところで、図画工作科を中心とする研修に取り組むことは、私にとつて初めての経験です。正直に言いますと、図工を専門としない私は、「図工なんてわからないし、難しい……。」と、最初は抵抗をもっていました。しかし、新学習指導要領を読み込みながらノートに整理しているうちに、様々なすてきな言葉に出会います。「感性」、「情操」、「創造することの楽しさ」、「よさや美しさ」、「喜び」、「自分の気持ちや感覚」、「イメージ」……

言葉に触れ、その意味について理解しようと読んでいるだけで、なんだか自分の心が浄化されるような気になさりました。そして、全国大会のテーマが「生きる力の根っこをはぐくむ」。言葉そのものの力強さに圧倒されます。自分の中で、「よし、図工を頑張るぞ。」という気持ちになったのは、こういった言葉に触れることから始まりました。中央教育審議会芸術専門部会委員の長田謙一氏は、過去に行われた造形美術フォーラムで、「様々ないわゆる『知的』諸教科の蓄積も、それが『生きる』ことにつながっていくには、人間の諸々の力をトータルにまとめ上げていく仕組みとレベルを考えられなければならぬ。芸術教科は、そういう生きる根幹にかかわるのであって、単に『知的』な諸教科とは違う。しかし単なる趣味の領域ではなく、生きる力諸々のエレメントを束ねて、まさに『生きる力』そのものにしていくレベルに関わっている」とし、「感性」の重要性について提唱しています。



このように、様々な研修や研究を少しずつ重ねていくうちに、図画工作科は、これから大人になる子どもたちにとって、非常に価値のある教科であることを自分の中でしっかりと確認することができました。さて、理論的なこともさることながら、私たち教員にとつて最も必要なのは「授業力」です。図画工作科において「感性」を十分に働かせることのできる授業の創造が重要であることを全国大会でも感じました。実は、全国大会に行く直前に、研究授業をさせていただきました。三年生「みんなであくろう！夢のまち」という単元です。この単元の指導を通して、たくさんのことを勉強することができました。製作過程における子どものこだわりや変容を見つける力の大切さ、イメージをふくらませるための指導法など、自分でも様々な発見をしながら進めていくことができました。製作過程を重視する活動を展開できたことは、今後、本校が研究を進めていく上でもよい提案ができたのではないかと思います。そして何より活動を「楽しい」と感じている子どもたちと私がそこにいた事実は図画工作科のもつ魅力そのものを

発揮できたと思っています。また、今回改めて感じたことは、普段あまり喋らない寡黙な子どもが創作活動の中ではとてもお喋りだということでした。作った作品が、ものすごくその子の自己を語っています。そういった子どもがたくさんお喋りできる、そしてたくさん聞くことができる図工の時間は本当に大切な時間だと感じました。一人一人の子どもの人間性を理解するという意味でも、図画工作科の果たす役割は大きいようです。一方で、課題もたくさん出てきました。単元で目指す子どもの姿をもっと具体的に示せること、鑑賞を効果的に利用する方法などです。今後は、その課題に向かって本校の先生方と一緒に研究を重ねていきたいと思っています。どの教科にしても、与えられた研修や研究の機会を大切に思う、謙虚な気持ちを忘れずにいたいのです。そして、ひとりの人間として、子どもの前に立つ大人として、自分自身の感性を高め、価値ある「自分軸」が育つよう、努力を続けていきたいと思っています。

791-1102 松山市来住町
八六〇

これまでの歩みと 今後の自分



宇和島市
三浦小教諭
石丸 里佳
(平六卒)

山を越え、トンネルを越え、海岸線をどんどん進むと、現在勤務する学校へ到着。全校児童三十三名、全員の名前と顔が一致するのはもちろんのこと、毎日全校児童と会話できるのは幸せなことです。

今年度は、かわいくてやんちゃで個性的な二年生八名の担任をしています。日中は、時間との戦い。毎日あつという間に過ぎていき、気がつけば放課後。子ども達が学校にいるにぎやかな時間も好きですが、放課後の静かな教室も好きです。今日の出来事を振り返ったり反省したり、明日のことを想像したり……。

これまでを振り返ると、この仕事を始めて、早いもので十五年目を迎えています。大学を卒業し、一年間は小学校の教員免許を取るために、試験を受けた教育実習に行ったりして過ごしました。その後二年ほど講師をさせていた

きました。

初任者として勤めることになった学校では、人生初めての一人暮らし。仕事と私生活のバランスを取るのが難しく、毎日必死に過ごしていたような気がします。

二校目は、小さな島の小学校。校舎は中学校と併設でした。校舎の中を、小学校一年生から中学校三年生までの子ども達が行き来する状態が、最初は不思議でなりませんでした。加えて、複式の授業や慣れない校務分掌に、てんてこ舞いの毎日。

その学校に勤めて三年目には、中学校兼務の辞令が出ました。小学校一年生と一緒に授業をしたかと思えば次の時間は中学生との授業、というような、貴重な経験。頭のスイッチが上手に切り替わっていたかどうかは定かではありませんが、毎日が充実していて、とにかく楽しかったのを覚えています。

いろいろな行事を小中で一緒にしたり、研修会を小中で一緒にしたりとたくさんのお話をいただきました。研究授業も小中の交流があり、研究協議も一緒に、たくさんのお話をいただきました。

勤務を終えて教員住宅に帰宅したかと思えば、夕食後には再び学

校へ。先生方や地域の方々やバレーボール・卓球・テニス……と、時間を忘れて楽しんだり、新鮮な海の幸をいただき楽しい時間を過ごしたりしたことも思い出に残っています。

転勤の時には、引越しの作業を保護者や地域の皆さんと一緒に手伝って下さいました。最後に船が島を出る時には涙が止まりませんでした。

この時の転勤では、結婚してまた生活が一変しました。生活リズムが大きく変わり、そして何より初めて住む土地で、知っている先生がだれもいない中での仕事。不安で仕方がなかったのを覚えて



います。しかし、そこで受け持ったのはかわいい一年生でした。「私自身も一年生」の気持ちで頑張りました。

その学校では六年間もお世話になりました。後半は、特別支援学級で新しい勉強や経験もさせていただきました。

今思えば、これまで勤めた学校で、その時の自分に合わせていろいろな仕事をさせていただいたような気がしています。仕事を行っているその時は、しんどいと思うことや、自分にはとてもできないと落ち込んでしまうこともたくさんありましたが、その経験があったので、今の自分があると思える様になりました。

年下の先生も増えてきて、相談を受けることも増えてきました。しかし、自分もまだまだ相談に乗っていただくことが多く、たくさんの方に支えられて仕事をしている毎日です。だからこそ、自分にできること、自分の力がだれかの役に立つと思うことがあるときには、「はい、やります。」と意欲的に頑張っていきたいと思っています。

798-0078

宇和島市祝森

甲九一七

会報の送料納付

について

平成二十一年七月号でもお知らせしましたように、会報の個人宛発送は、送料を各自で負担していただくことになっております。

出費多端の折柄恐縮ですが、未納の方は、左記要領で納付方お願い申し上げます。

記

①一ヶ年五〇〇円で、二ヶ年分ずつ収めるようになっております。

②二年ごとの更新は、煩さなので、何ヶ年かを、まとめられる方もあります。

納付期限 毎年三月三十日までとし、二年毎に更新する。

送金方法 郵便為替・現金書留・振替口座番号

振替口座番号 〇一六四〇一七二七五四

送り先 〇七九〇一八五七七 松山市文京町三

愛媛大学教育学部同窓会

領収書は、振替用紙をもって、かえさせていただきます。

思いやりによって
支えてもらったこれまで
支えたいこれから



今治・西中教諭

福井 智裕
(平一五卒)

原稿を書くにあたり、愛大教育学部を卒業してもう七年が経とうとしていることに月日の流れの早さを感じました。自分自身のこの七年間の軌跡を書いていきたいと思っています。

六年前に美須賀中学校にて新規採用となりました。今治の中心部に位置し、各学年二クラスという小規模校で、生徒指導体制が充実している学校でした。当時私は、子どもの目線に合わせて話をするという、当たり前のことを忘れてしまっていて、生徒の現状を考えずに、授業を行っていました。教えたことだけを教えようとしていた授業はうまくいくことはなく、いつも同僚の先生方に助けていただきました。また、放課後の部活動が終わった後も、夜遅くまで熱心にたくさんの方を教えるくださった先生方に心より感謝し

ています。

教員二年目に岩城中学校での勤務を命じられました。瀬戸内に浮かぶ小さな島にある学校で全校生徒七十名という小規模校でした。どのクラスにも授業に行くことになり、たくさん生徒、保護者、地域の方と深くかわかることができました。夏休みに部活動の一日練習を行いました。一日練習とは名ばかりで、午後からは生徒たちとともに島の四方を囲む美しい海に泳ぎに行きました。泳ぎ達者な生徒たちは怪我もなく、私だけが牡蠣で足を切り、十五針縫ったのも今となってはいい思い出です。地域の方々も様々なことに熱心で、PTAの環境整備や総合的な学習の時間など、行事の際には、いつも多くの方が積極的に参加してくださりました。また、秋祭りには、生徒、保護者、教師、地域の方すべてが総出で、夜遅くまで神輿をかいいたり、ごちそうを食べべたりしながら親睦を深めました。地域独特の温かい連帯感、このような経験を小さなころから繰り返していく中で育まれていったものなのかもしれません。私自身も教員生活二年目から、この温かい地域の中で育ててもらったことに

心より感謝しています。

教員五年目からは現任教である今治市立西中学校に赴任しています。初めての大規模校が今治市内でもっとも生徒数の多い学校になりました。多くの生徒が大きな声であいさつをしてくれるものの、名前がわからないまま返事を返していることが多く、覚えられないもどかしさを覚えています。本校二年目で初めて学級担任をする事になりました。何をどうしていいのかわからない私のために、毎日職員朝礼の後、その日の伝達事項などについて学年部全員で確認してくださいました。また、道徳や学級活動など、どうしていいのかわからないときには、「この題材でこんな授業をやったよ。」と言いながら、資料や題材を紹介していただきました。生徒指導面でも、前面に立つことを応援してください、失敗を繰り返しながら学ばせてもらっております。多くの先生方に支えられて今の私があることを改めて実感しました。



育館の中に、毎年全国大会出場を狙っている先生方がいます。私自身の乗り気がしなかったときにも、その先生方が熱心に指導をしていたり、生徒たちのひたむきに努力する姿勢をみていたりすると、自然とやる気がみなぎってくるので不思議です。そんな熱心な先生方が近くにいたからこそ、今年県総体ではベスト4という成績を残すことができました。いつも練習試合をしてくださった先生方、そのたびにたくさんの方を教えてくださった恩師、卓球部の活動に意欲的に協力してくださいました保護者の方々、そして、教えることが下手だった私に最後までつ

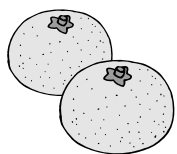
いてきてくれた生徒たち、その全てのおかげで今の自分があると思っています。本当に貴重な経験をさせていただきました。今後何年経つたとしても忘れることのできない貴重な日々を毎日過ごさせていただいていることに、感謝しています。

最後に、今この原稿を書きつつ、多くの方々に支えられて生活できていたというのを思い出すことができました。たくさんの方々が熱心に私を指導してくれたのは、これから関わっていくであろう生徒たちのためだと思います。まだまだ未熟ですが、早く一人前と呼ばれる教員になり、多くの方々からいただいた思いやりの気持ちを生徒たちにも伝えていきたいと思っています。いつか将来、生徒たちが大きくなったところに、思いやりあふれる人たちがいっぱいになるように。

794-0802

今治市南島生町

四一八一



桜梅桃李の教育を



松山市
椿中教諭
小笠原由衣
(平二二卒)

「桜梅桃李(おうばいとより)」、私はこの言葉が大好きです。桜には桜の美しさ、梅には梅の美しさがあります。どちらも花という点では変わりませんが、それぞれ、その花にしかない良さ、素晴らしさを持っていきます。私たちも同じで、一人一人が自分にしかない良さを持っており、みな特別な存在です。だからこそ、自分も、人も大切にできる人間にならなくてはならない。この言葉にはそのような想いが込められています。

今年の春、私は新規採用教員として、松山市立椿中学校に着任しました。現在、二年生の学級担任をさせてもらっています。生徒との出会いの日、私は「桜梅桃李」を贈りました。

「三十九名がそれぞれの個性の花を咲かせてほしい。そして、その個性をみなが大切にできる学級にしていきたい。」
と、このように伝えました。以来、事あるごとに、この言葉を繰り返して言ってきました。

しかし、そのような想いとは裏腹に、学級では様々な問題がありました。数日に一度は、男子生徒

同士のいさかきがあり、興奮した生徒を止めに入ったこともありました。また、反抗期の生徒と、うまくコミュニケーションがとれず、学級に指示が浸透しないこともありました。学校に来にくい生徒もおり、一向に解決の糸口も見えてきません。悔しさと、やるせなさが入り混じり、気持ちが折れそうになることもありましたが、きつとそれが表情にも出ていたのだと思います。ある日の放課後、数名の生徒が教室に残っていたことがありました。どうしたのだろうと思っていると、

「先生、大丈夫なん。いつもの笑顔がないよ。先生は笑っているほうがいいよ。」

と、生徒の一人が声をかけてきたのです。思いもしない言葉でした。その生徒はいつも指導しなくてはならない生徒で、私自身、頭を抱えていた生徒でした。思わず、涙がこぼれそうになりました。こんな優しい一面がこの子にはあったのだと、うれしい気持ちになりました。一方で、「教員」という形ばかりにこだわってしまっていた自分がいたことに気が付きました。表面的な姿にとらわれ、その子の良さを十分に見ていなかった自分自身を反省しました。このことがあって、生徒を見る視点が変わりました。直さなければならぬ面はもちろんあるけれども、生徒一人一人に素敵な個性があふれていました。少しずつ、学級の問題も解決の方向に向かって行きました。

体育大会の時のことです。本校は学年ごとのクラスマッチ形式で行われます。二年生の団体種目では綱引き、長縄跳びがあります。長縄跳びの練習では最後まで、連続二十回以上跳ぶことができませんでした。十回跳ぶのもやつの状態で本番を迎えました。幸いにも綱引きには自信があります。こうなったら、個人種目と綱引きにかけるしかない。生徒も、「先生、俺らが個人種目でリードするから。」と力強く言ってくれました。しかし、その気持ちが空回りしてしまい、個人種目でも順位を上げられませんでした。また、けがをしてしまい、その後の種目に出られない生徒も続出しました。リレーの選手も含まれていました。綱引きは何とか健闘したものの、前半が終わった時点で、他の学級とは大差の最下位。残った種



目は長縄跳びとリレーのみです。昼休み、教室でお弁当を食べている生徒はみな様に暗く、あきらめかけていました。このままではいけない、そう思いました。「絶対にあきらめちゃ駄目。あきらめたら何も始まらないよ。必ず、道は開ける。」と何度も励まして午後には臨みました。とは言え、長縄跳びが始まると、私自身緊張でかく足が震えました。三分の競技です。始めの二分の時点で途中経過が発表されました。他の学級は二十回を超えています。一方、うちは十回も越えていません。「跳べる。跳べるぞ。」みなが必死で声を出しました。

「パンッ。」終了の合図が鳴りました。合図と同時に歓声があふれました。三十九回跳ぶことができたので、健闘むなしく、総合順位は最下位。しかし、生徒はみな、清々しい顔つきでした。

生徒とともに泣いたり、笑ったり、毎日が驚きと発見の連続です。学級経営や生徒指導等での失敗は多く、悩みはつきません。しかし、素晴らしい同僚の先生方の支えもあり、毎日元氣いっぱい生徒たちと向き合っています。

今の学級で過ごせるのもあとわずか。できる限りの努力を惜しまず、生徒とかかわり合いながら、共に成長していきたいと思えます。

791-0244 松山市水泥町 七二五(八)

朋友会館の 利用案内

一、申込み方法

(1)宛先

〒790-8577

松山市文京町三

愛媛大学教育学部

同窓会事務局

TEL 089-927-9383

学務チーム内同窓会係

(2)方法

電話又は、はがき等文章でも可。但し、同大内の

「財務部財務企画課総務・

照査チーム」作成の申込書

(使用許可書)に必要事項

を記入するため連絡方法を

明記してください。

(3)申込期間

余裕をもって申込みと確

実、少なくとも五日前ま

で

に

二、利用資格

大学の教職員及び同窓生

三、利用施設

●会議(大小四室)・会食

●宿泊(ツイン四室、シングル八室、和室八畳、十畳各

一室)

四、食事・料理

料理、飲みもの共に可能

心に残る 出会いとともに



西宇和郡
三崎中教諭
大石 友紀
(平五卒)

先日、書店である一冊の本が目にとまった。『心に残る先生』。教師心をくすぐるそのネーミングに、本を手に取りページをめくってみた。そこには、もと教師だった著者が出会った魅力ある恩師や同僚、また自らの生徒との関わりが紹介されていた。思いやりにあふれた先生、厳しい躰に徹する先生、盛り上げ上手な先生、そして生徒から学んだこと、失敗談……。私の中にも、心に残る先生や生徒との出会い、関わりがある。小学校六年生のとき担任だったT先生。厳しい先生だったが、よくほめてもいただく先生だった。難しい漢字が読めたとき、下級生の手助けをしたとき、教室の花を上手にいけたとき、いつも大げさなくらいにほめていただいたその場面を今でもはっきりと覚えている。教職に就き、一教諭と教育長という立場でお会いしたときも、

あの頃と変わらない優しいお顔で、私のつたない授業や生徒との関わりをほめていただいた。くすぐったいけれど、何ともいえない満足感に満たされる。先生には、ほめてもらうことのうれしさを教えていただいたと思う。

中学生のとき数学の担当だったY先生。先生にはわかること、できることの喜びを教えていただいた。てきぱきとしていたのしほった授業。胸の前で指を組み、お話しされるのが決まったポーズで、よく友だちとまねをした。先生の授業が待ち遠しく、数学は私の得意教科になった。教師という仕事に興味を持ち始めたのもこの頃だった。

そして、大学時代の教育実習でお世話になったH先生。パワフルでバイタリテイにあふれた先生だった。実習ノートの最後のページには、先生からのメッセージがある。「…あなたには何にでも取り組んでいく力、そして仲間と共に協調して活動できるやわらかさがあります。三崎生まれの大きさ、生きていく上でのセンスのよさを持つており、本当に幸せなことだと思います。…でも、何でもうまくこなすこともいいけれど、これだけは人にまけないという何かも見つけなさい。」ちょっとした衝撃だった。どんなことにもうまく対応している、そんな自信があったのかもしれない。それからこの言葉はずっと私の心に入り、人にまけない何かを自分を持つていけるのか、個性でも特技でもいい自分の魅力は何かということを考えるようになった。

生徒との関わりでも、忘れられない場面がある。ある学校で二年生を受け持ったとき、なかなかまとまらない学級に頭を悩まし、生徒に語りながら思わず涙をこぼしてしまったことがある。次の日、ある生徒が日記にこんな言葉を書いてきた。「先生は私たちのために泣いたんじゃない。」はっとさせられた。その言葉の通りだったからだ。自分だけがつらい、そればかりで子どもたちの思いまで考えていなかった。情けなさでいっぱいになるとともに、自分の責任というものを痛感した。

そして今、私は特別支援学級の担任をしている。今年で四年目。私は彼らとの関わりを通して、自然体でいること、使命感を持つこととの大切さを強く感じるようになった。今は一人の男の子の担任



だ。海岸沿いのジョギングが日課。車が好きで、工作が得意。でも大の恥ずかしがり。好物のドーナツでも「半分こしましょう。」と言ってくれる。時間はゆったりと流れ、おだやかな気持ちで一日が終わる。本当に純粋で日だまりのようにあつたかい彼の前では、自分を飾る必要はない。誰かのまねも、無理に明るく、厳しく振る舞うこともない。「自然体」の自分がある。そして、決められた指導内容もなく、一人一人にあつたカリキュラム。自分に任されているからこそ、「使命感」を持って関わりたいと思う。私たち教員には、中学校三年間は何回でもめぐって

くる。今年うまくいかなかったも年がある。でも、子どもたちはそうではない。一度きりの一年生、二年生、三年生。だから手を抜かない。様々な体験をし世界を広げてほしい。自立に必要な力を身につけてほしい。まだまだ指導は未熟だが、この思いは忘れずにいたい。

教材研究の大切さを説いて下さった先生、地域にとけ込み地域の方と交わる先生、私の甘さを厳しく戒めて下さった先生、信頼をよせてくれた生徒、そして生徒と心が通じた瞬間。様々な先生や生徒との出会い、関わりに影響を受け、今の私がいる。私は今、生徒から、同僚から、地域から見て、どんな先生だろう。「これが私」という決まった教師像はまだない。様々な人々との出会いとともに、教師としての歩みが続けていくのだと思う。これまでも、これから。

☎ 796-0801 西宇和郡伊方町三崎
六五四



放送最前線にあつて思うこと



愛媛CATV勤務
栗林 賢一
(平一三卒)

私は松山地域でケーブルテレビサービスを提供する愛媛CATVに勤務しています。入社以来八年間、放送部に所属し、番組制作業務に携わってきました。これといった専門分野はなく、ディレクターやカメラマン、記者、編集、技術といった放送に関わるあらゆる仕事に携わっています。会社設立以来変わらない「街じゅうがスタジオ、市民が主役」のスローガンのもと、カメラを手に街中を駆け回る日々を過ごしてきました。なんでもござれの刺激的で楽しい、ある意味では仕事に偏った(笑) 毎日を過ごしております。

現在は、愛媛CATVの自主制作チャンネル「たうんチャンネル」で平日夜初回放送の情報番組「たうん広場」の総合デスクを担当しています。松山市、東温市、砥部町、ビスエリア内での日々のローカルニュースの情報収集、取材計画の作成、放送されるニュースや告知、

ミニ企画コーナーのチェックなど、番組を一つにまとめあげる仕事が仕事です。しかし、根っからの現場好きであることから、デスク業務と並行して取材や中継収録の現場にも出ています。まさにブレインゲーマネージャーとして、机の上に広がる取材資料の山と格闘しつつ(笑)、ケーブルテレビならではの街ネタをお茶の間に届けようと、日々業務に取り組んでいます。生まれ育った松山のために働くことができ、大きなやりがいを感じています。

そもそも、私が放送の仕事に就きたいと思いはじめたのは、小学校高学年の時でした。幼い頃から家にあるステレオをいじくり回し機械を触ることに興味を持っていて私にとって、様々な機器に囲まれた学校の放送室は非常に楽しい



空間でした。小学六年生の時に所属していたビデオクラブで、顧問の先生にカメラの腕を褒められたことをきっかけに「放送に関わる仕事がしたい」と強く思うようになり、中学・高校と放送部に所属し、学生の本分である勉強を忘れる(?)程に活動に熱中しました。大学でも放送研究会というサークル活動に打ち込み、仲間と一緒に何かを作り上げていくことの楽しさを感じました。

在学中は情報文化課程情報科学教育コースに在籍し、理科教育の佐野栄先生の研究室で、当時学校への導入が進んでいたコンピュータを教育現場へどのように活用するかについて、ホームページを使った手法を研究しました。佐野先生にはコンピュータの知識や技能をあれこれお教えいただく一方、卒業後の進路についても指導をいただきました。中でも、企業に提出する履歴書を何回も丁寧に添削していただいたことは今でも印象深く覚えています。最初は空白の目立つ履歴書が真っ黒になるほどビッシリ埋まるまでに書き上げることができ、その履歴書を持って望んだ愛媛CATVに無事採用されました。私が愛媛CATVに入社できたのは、佐野先生のご指導のお陰と今でも感謝しています。良き指導者と研究室に集う個性的で楽しい仲間恵まれ、充

実した学生生活を過ごすことができました。

教員免許を持たず卒業したため教員として子どもたちを指導することはありませんが、社会人になっても仕事を通じて教育との大きな関わりを持ち続けています。

私の勤める愛媛CATVでは教育分野にとっても力を入れており、小学生の会社見学や放送現場体験、中学生の職場体験学習や高校生のインターシップを数多く受け入れています。実際に番組制作の現場で使用しているプロ用の機材を子どもたちに使ってもらい、企画から撮影、編集までを全て子どもたちの手に委ねています。出来上がった作品は愛媛CATVの自主制作チャンネルで放送し、子どもたちのメッセージを多くの市民に向けて発信しています。最初は慣れない子どもたちもすぐに機器の使い方を覚え、プロ顔負けの番組を完成させています。

パソコンやデジタルカメラなど情報通信機器が各家庭に普及し、手軽に触れる機会が多くなった今日、このような体験を通じて子どもたちには情報の受け手から発信者へと成長してほしいと願っています。近い将来、愛媛CATVの自主制作チャンネルが彼らからの投稿映像で賑わう日も来るでしょう。私はこの会社あげての取り組みに携わること、子どもたち

のメディアリテラシーの育成・向上の一助になりたいと思っています。

つい先日、松山市内の中学校の職業科という授業の講師として数ヶ月にわたり教壇に立つ機会がありました。このように子どもたちへの指導を通じて、教育学部で学んだ知識を生かせることに喜びを感じています。

入社して八年、学生時代と比べると今は一日があつという間に過ぎていきます。ケーブルテレビを取り巻く環境も日進月歩の変わり様で、愛媛CATVでは情報通信分野の劇的な変化の波に乗って高速無線通信「ワイヤレスネット」の提供を始めるなど、新たなサービスを展開しています。

このような慌しい環境の中で、大学での学生生活を振り返ってみると、時間にとらわれることなく何か一つのことを打ち込める絶好の機会だったと思います。贅沢に時間を使う経験とあわせ「人を育てる」知識を理論的に学ぶ教育学部で青春時代を過ごせたことは、私の人生にとって、とても濃密で有益な時間でした。

愛媛大学教育学部で学んだという誇りを胸に、これからも一生懸命頑張りたいと思います。

☎ 790-8509

松山市大手町

一〇一〇一四

学内最近のニュース

愛媛大学開学六十周年記念式典を挙行

昭和二十四年五月、新制国立大学として発足して今年で六十周年を迎えたことを記念して、開学記念日の平成二十一年十一月十一日（水）、記念式典、記念講演会、ミュージアムオープンセレモニー、祝賀会を開催しました。

式典には、清水潔文部科学審議官、加戸守行愛媛県知事、中村時広松山市長、森本悖校友会会長をはじめ、県内自治体、近隣大学長、関連企業、同窓生、退職教職員、大学教職員及び学生約三百人が出席しました。



式典で式辞を述べる学長

柳澤康信学長は、式典の式辞の中で、本学の発展を支えていただいた多くの皆さまに感謝するとともに、これからも地域の「知の拠点」として、地域に根付いた活動を重視していきたいと述べました。

また、清水文部科学審議官が、大臣祝辞を代読、県知事、松山市長、校友会長から祝辞をいただき、あらためて、愛媛大学に対する期待の大きさを実感しました。式典終了後、天野祐吉氏による「大学の顔」―大学の顔は見える



ご講演をされる天野先生

か―と題した記念講演会を開催。独自の視点から、初等教育から高等教育の現状とあり方を分析し、大学の魅力を広く知ってもらうことの重要性を、ユーモアを交えて語られました。

続いて、十一月十四日（土）から一般公開となるミュージアムのオープニングセレモニーを行い、式典参加者へお披露目しました。



学歌を唱う参加者



ミュージアムオープンセレモニーでのテープカット

「愛媛大学ミュージアム」の一般公開を開始

平成二十一年十一月十四日（土）、「愛媛大学ミュージアム」の一般公開を開始しました。

愛媛大学ミュージアム（以下「ミュージアム」）は、愛媛大学開学六十周年を記念し、地域の皆さんに、本学の研究成果や資料を無料で常時公開する展示施設としてオープンしました。ミュージアム内は、本学の概要と歴史を示す展示ゾーン、昆虫部門、岩石・鉱物・化石部門、考古学部門、記録資料部門の四つの部門を柱とした常設的展示ゾーン、特別企画展示ゾーン及び全学の学術研究を発信する

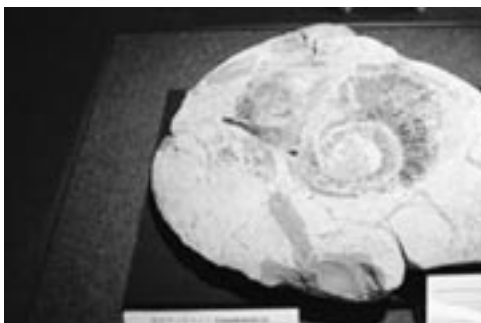


昆虫はやっぱり人気No.1

展示ゾーンに分かれており、地域の皆様にわかりやすく見ていただける展示空間を構成しています。



色鮮やかな蝶



巨大アンモナイト

文芸



川柳

アナログへの郷愁



栗田 忠士
(昭三五卒)

年齢の偽装ぐらいいは罪がない
海外で買った土産が日本製
敬語ならペットも花もよく育ち
休耕田へ首をかしげている雀
政権交代野次り役まで入れ替わり
表記法覚えたころにまた変わ
ノンアルコールそれでもビール飲み
ますか
もったいないの心も捨てた使い捨て
粗大ゴミいいえあなたは資源ごみ
アナログのテレビは粗大ゴミですか
ネジ巻けば僕の時計はまだ動く
まだともの間に僕の人生譜
アナログのリズムで歩む老いの坂
自画像は未完のままに掛けてある

—————*—————
年齢の偽装ぐらいいは罪がない
産地偽装、ブランド偽装、果
ては密約という条約偽装もあつ
たらしい。それに比べれば年齢
ぐらいいは大目に見てほしい。
敬語ならペットも花もよく育ち
ペットにも花にも赤ちゃんに
も「あげる」の敬語。さぞすく

すく育つてしようね。
休耕田へ首をかしげている雀
私のごちそうに代わってアワ
ダチソウが揺れている。日本の
農業はどこへ行く。

粗大ゴミいいえあなたは資源ごみ
濡れ落ち葉なんて言うなか
れ、まだ十分使えますよ。もつ
たいないもったいない。
アナログのテレビは粗大ゴミです
か
日進月歩のIT化。まだまだ
使えるアナログテレビは廃棄す
るにしのびないが、地デジ地デ
ジと攻め立てられる。

ネジ巻けば僕の時計はまだ動く
正確さでは電波時計に敵わな
いが、アナログ式の時計の感触
と音感は捨てがたい。
まだともの間に僕の人生譜
まだまだと思っていたら、あ
れ、もう来てしまった。少年老
い易く学成り難し。

アナログのリズムで歩む老いの坂
まあそんなに焦りなさんな。
ゆっくり、てくてく、ぼちぼち
行くしかないよ。
自画像は未完のままに掛けてある

最後の一筆の色がまだ決まら
ない。明るい色で決めたいが、
金色は止めよう。

(☎) 791-0101 松山市溝辺町
甲六一〇

絵手紙

絵手紙で心豊かに

二宮 亮二
(昭三五卒)



〈教室生の感想文より〉

絵手紙の魅力に惹かれて、月一
回の教室を楽しみに、教室の皆さ
んと共に和気あいあいと作品づく
りに取り組みました。絵手紙は移

り変わる四季折々に咲く可憐な草
花や果物・野菜など、一回につき
六種類を描きました。年十回の受
講ですから六十種類の絵手紙を描
いたことになりました。

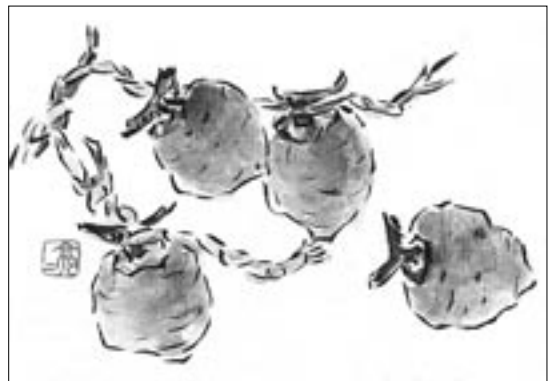
先生の親切なご指導のもと「描
く絵に上手、下手は関係なし、心
を込めて描いた手作りの温かさが
いいんです」という言葉に元気づ
けられて、悪戦苦闘しながらも頑
張ることができました。

絵手紙は描くことに集中するこ
とも大切ですが、季節の挨拶や知
人の安否、暮しの中での近況報告
など、手紙のやり取りを通して、
相手との心の交流を図ることの大
切さを学ぶことができました。

これからも、絵手紙を描くこと
で自分も相手も楽しみ、喜び、心

が通い合う一時を大切に、心豊か
な生活を送りたいと思います。

(☎) 796-0066 八幡浜市本町一八六



俳句

句集「春夏秋冬」より



加藤 敏史 (昭三六卒)

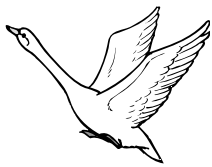
千年の古木に垂るる藤の花
杜鵑鳴くを聞きつつ畑を打つ
野猿来る木の芽起しに濡れながら
勢いよく松の新芽の群立ちぬ
リフト直下筒足元まで伸びる
雨脚の増して大虹薄れゆく
滑床を涼しき水の滑りくる
汗拭かで仰ぐ摩文仁の青き空
羅を着れば清しき肌ざわり
標高二千県境を飛ぶ夏燕
暮れなずむ並木に蟬の声残る
川の土手わが行くほどに虫繁し
白粉花土手の右にも左にも
地崩れの山は眠らず年明くる
地崩れの山の地肌白雪白し
悠然と尾白鷺飛ぶ雪の原
蟹の宿玄関に咲く蟹仙人
土手に出て冬の星座を独り占め
鴉一羽黒一点の雪の原
大山を越え北帰行小白鳥

十郎先生(昭和六年本科第二部、昭和十一年専科卒)の教えて俳句を作るようになった。
初めての句は
日向ぼこしている子チエスパス
勿論、この句のことは忘れてしまっていたが先生が「加藤君が初めて作った俳句です」と手紙で教えて下さった。
村上先生が蒔いて下さった俳句の種子は後年、齊藤健爾先生(昭和十年本科第二部卒)と三島西中学校で共に勤務するようになって芽を出すことになった。
齊藤先生は職員室の窓に鳥の子紙を切った大きな短冊に自分が作られた俳句を貼られたのが始まりで校長先生、教頭先生をはじめ多くの先輩が俳句ができたなら齊藤先生に見てもらうようになった。
私も句心が湧き、句ができれば齊藤先生に見てもらい「ええ句じゃ」と褒められれば素直に喜び、「ここをこうしたら」と直されると、なるほどと感心し、窓に貼られる先生や、先輩や自分の句を



見るのが楽しみだった。
道半ばついに遭いたり冬疾風
は「遭いたり」を「遭うたる」と添削されたこと今も鮮明に覚えている。
その齊藤健爾先生は残念なことに平成十四年故人となられた。
一方、村上千郎先生は松山に転居されているが今も健在で朱郎の名で俳句を、宗徹の名で茶道の指導に当たっておられる。
私は句集「春夏秋冬」を出した後、先生が土居町在住時代に創設し主催されていた句会「ちかい」の会員の方から「ちかい」へ入会のお誘いがあり逡巡していたら、老師から「入りなさい」と一喝の文があり入会、末席をけがすようになつて二年になろうとしている。
私が俳句という趣味を楽しめるのも、愛大教育学部の前身、愛媛師範出身のこの二人の大先輩のお陰であると感謝の念を新たにしている昨今である。

799-0711 四国中央市土居町土居 二二七五一一



短歌

茅の輪

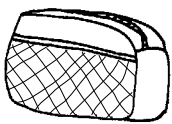


北岡 実栄 (昭二二卒)

茅の輪を三たびくぐりて加護ねがう
氏子集へる夕ぐれの森
年ふればよきことのみを聞かせたし
孫娘の婚をよろこぶ夫に
右左よどみなく歩む人眺む突如痛み
し足もつ吾は
携帯を求めし吾の手ほどきは吾娘なりうれしメールを覚ゆ
土いじり一日を終えて湯浴みせば荒手に秋の深まり覚ゆ
鬼祓う夫の大声さわやかで今年もつつがなく過せる予感
教鞭を共にとりし友みな老いてきよ
う敬老の集い招かる
若き孫介護が好きと励みあるいずこで得しやその心根は
今しがたトマトに立てし支柱柵はや小雀の遊び場となる
蕎麦好きの二人に今夏を届きたる味も気持も丸ごと啜る
教え子の贈りくれたるキルト・ポーチ古布のぬくもり人のぬくもり

忙しい主婦業の中にもひとりだけの時間がある。ずしんと畑に腰をおろしひたすら草をむしる時、一日を終えて床についた時、一人旅する小旅行の車中、ひとりであれこれ思い巡らすのが好き楽しみのひとときである。その時に出来たのが私の短歌、全く自己流の生活記録というもの。
もし勉強というなら、月刊の「NHK短歌」を読む。日曜の朝の教育テレビ「NHK短歌」を見る。たまにしか掲載されないが愛媛新聞に投稿する。日常茶飯事の夫との対話の中で批評し合う。といつても今年ダイヤモンド婚を迎えた老二人の作業だから……。
短歌を通して思うことは、私の日々の営みの中で感動を与えてくれた人・物・事に感謝したい。そしていつまでも感動を覚える自分でありたい。

799-0711 四国中央市土居町土居 二二二二一一



短歌

亡夫を偲びて



石川 富代
(昭二五愛師本)

すみれ葉の毛虫に鏝削吹く吾に
 「蝶になるよ」と夫が止めたり
 生涯学習の講師となりしわが夫は
 「自然散歩」を生きがひとする
 紺碧の空に紅梅ゆれ咲きて
 病みいる夫にも春を呼びたし
 温湿布に痛み止みしか病む夫が
 われの傍へにすやすや眠る
 新居浜は北限といふモエジマシダ
 究明途中に夫は逝きたり
 山歩きを共にしたると教へ子が
 冷酒持ち来てて仏前に供ふ
 わが郷にモエジマシダ見つけたる
 亡夫の文獻師より送らる
 在りし日の夫が植ゑたる梨瓜が
 未枯るる畑に実りていたり
 あら草に埋もれしままに太りいる
 亡夫が植ゑたる玉葱を引く
 いくとせを家族そろひて見し火花
 夫亡き今宵遠くながむる



石川 早雄

亡夫の作りし植物標本二万余が
 博物館へ運ばれて行く
 耕運機の音の弾める朝明けを
 亡夫とまがひ起き出したり
 詠友としまなみ海道巡り来て
 亡夫と渡りし錦帯橋に佇つ
 ヨーロッパの旅を果せぬまま
 逝きし夫の写真を持ちて巡りぬ
 撞れのローマに訪ひしトレビの泉
 亡夫と二人のコインを投げる
 原生林の調査続けて逝きし夫
 「小田深山の自然」上梓なりたり
 籠りぬし雨戸開きて初日の出を
 夫の遺影を抱きて拝む
 この年もカサブランカの花咲けり
 庭に亡夫の面影の顕つ
 七回忌の夫法要にはろばると
 遠住む姉弟集ひくれたり
 小雪舞ふ墓の父さん寒かると
 娘は水を掛けるをためらふ

792-0852 新居浜市東田二丁目
 一四五三一一

水墨画

心象風景

渡部 平人
(昭三五卒)

筆を持つ時間が楽しみになり、
 ゆったりとした癒しの時間になれば
 いい。そんな思いで続けているもの
 の、雑用に追われ、落ち着いて座る
 時間がない。

正岡子規は、文学にも画にも「写
 生」という手法を初めて導入し、既
 成の観念にとらわれず自分の眼で美

しいものを発見すること、あるがま
 まにものを観て表現することなどを
 提唱し実践した。

水墨画を始めたころは、まずは手
 本をそっくり写すことだった。しか
 し、ある程度の技法が身につけば、
 描きたい題材を見つけ、そこから取
 捨選択し、あるがままよりも実感を
 大切に、そのものの本来の姿を
 描きたい。それが子規の目指した方
 向にも合っていると思われが、その
 段階に進むのはなかなか難しい。
 描く題材として親しみを覚えるの
 は、幼少期に古里で親しんだ山河や
 茅葺きの家であり、また四国霊場の
 山門の佇まいである。

山の高さを強調したり、手前に迫
 り出した岩を配したりすることで、
 奥行きのある景にしたい。墨色の濃
 淡によって遠近を描きたい。など思
 うものの、なかなか意のままになら
 ず。

筆の動きを速めることで、生きた
 線を描き、全体に勢いを出したい等、
 課題は解決されないままである。

こころの風景を、無心に自在に描
 けるようになれば、至福の時間を楽
 しむこともできるはず。いつか、そ
 の境地に近づくことを夢見つつ。

791-0243 松山市平井町
 一三三三一一





先輩を偲ぶ

独学で教師を目指した 森岡数栄先生百九年の足跡(十二)



上甲 修
(昭二九卒)

教員生活三十一年の哀歎

森岡先生は大正十二年四月(二十七歳)から昭和二十九年三月(五十八歳)までの三十一年間、教員を務めた。

歴任校は次の通り。
下灘尋常高等小学校(二年二ヶ月)
大平尋常高等小学校(一年十ヶ月)
松本尋常高等小学校(十四年)
砥部国民学校 教頭(三年)
野中国民学校 校長(三年)
佐礼谷小学校 校長(七年・退職)
森岡先生は大正の末期から昭和の中頃までの激動の時代、いわゆる戦前・戦中・戦後の波乱の時代を過ごし、喜びとまた深い悲しみも体験したのです。

大正十二年四月、森岡先生は伊予郡下灘村の下灘尋常高等小学校(伊予市)に赴任し、五年生を担当した。

当時、学校は豊田下浜の小高い所にあり、教室の窓を開けると瀬戸内海で遠くの島々は霞んで見え

た。

当時、陸上交通の便は悪く、郡中港から長浜、伊方(西宇和郡)へ汽船が通っていて、それが豊田へ寄港していたのです。広い海を見ながら育った子供の家庭は、農家が最も多く、次いで猟師、商家の家庭の子がいた。どの子も純朴で、親しみ易く家庭的な環境の中で教育が出来るのを幸せに思っただ。また児童一人一人を立派な人間に育てるにはどんな方法があるのか、を考えると先ず自分自身が立派な人間にならなければ、その姿が子供達に反映して、子供が知らず知らずのうちに感得するのが教育である、と確信したのです。

二人だけの進路指導は出来ないのので、放課後、学校で少し勉強して帰りたい、という希望者を募ったところ、五、六人あったので一緒に補習を続けた結果、二人は見事合格して家族の人と共々喜び合ったのです。二人のうち一人は医者になり、もう一人は実業家として

共に成功した。ずっと前に、この二人が松山へ招聘してくれて昔の思い出話をしたのは教師冥利に尽きる、と言われた。

三十一年の教員生活で最も悲しかったことは、教え子が太平洋戦争で数人戦死したこと。その中には母ひとり子一人の家庭の教え子がいたのです。高等科二年担任の時の生徒が満蒙開拓青少年義勇軍の一員として、当時の満州国(中国北東部)へ派遣され、そこで病に倒れて帰らぬ人となったこと。また恩師であり校長でもあった岡本藤枝先生が義勇軍の隊長として満州へ行かれ、そこで亡くなられたことなど、戦時中から戦後にかけては、本当に辛いことが多かった、と語っておられる。



師範学校卒業時、後列左から二番目森岡先生

愛媛大学・(財)白楊会館 結婚相談所・MCC

(Marriage Counseling Center) からお知らせ

結婚相談してみませんか

♡素敵な出会いを♡

皆様の幸せな結婚を願っています。どうぞお気軽にご相談ください！多数のお申し込みをスタッフ一同お待ちしております！

申し込み手続きについて

●申込書 MCCにある用紙にご記入のうえ、身上書一部を添付してください。なお、申込書については、MCCにご請求ください。

●写真二〜三枚。

(一年以内に撮影したカラーでサービス版程度のスナップが望ましい。)

費用について

●申込金一万円、諸経費二万円(三年間有効)、計三万円が必要です。

これについては、同封の郵便局振込用紙を使用して振り込み、領収書を同封してください。なお、三年経過後の継続は、諸

経費の二万円を同様の方法で振り込んでください。

●お見合い費用は、双方のご負担と致します。

●結婚ご成立の際は、双方から二万五千元ずつ、計五万円をいただきます。

ご連絡は

毎週水曜日

午後一時から午後五時まで

電話番号 (FAX兼用)

(089) 923-7210

愛媛大学・(財)白楊会館

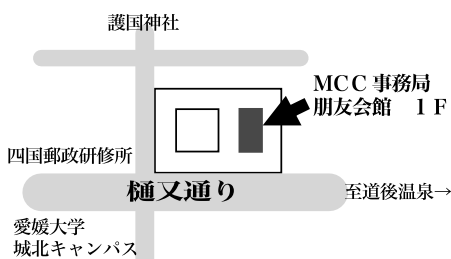
結婚相談所・MCC (Marriage Counseling Center)

〒790-0825

愛媛県松山市道後樋又十番十三号

TEL (FAX兼用)

(089) 924-7910



明治生まれの国際派

合田亀太郎先生

最近ふとしたことから、同窓生の巨星とも言うべき合田亀太郎先生
の存在を知った。

先生は、明治八年十月二十七日
(一八七五年) 父新平、母りょう
の長男として、愛媛県周布郡北条
村(現西条市北条)で誕生された。

明治十五年(一八八二年)北条
村立開英小学校入学

(同校は愛媛県周布郡十三番学
区に属したが、明治二十年四月に
北条村・三津屋村組合立北条尋常
小学校となった。

当時の就学年齢は六歳だが、実
際の就学率は一般に五割程度だっ
た。就業年限は初等科三年(六級
一級)・中等科三年・高等科二
年で、それぞれ進級試験があった。



また、小学校令により、明治二十
年四月以降、尋常小学校四年(義
務教育)・高等小学校四年となる
(高等小学校は新居郡明屋敷)

明治十八年九月 進級試験優等
賞

明治十八年十二月 進級試験最
優等賞(初等科三級生)受賞

明治十九年六月 初等科第二級
奨励試験優等賞受賞

同 卒業試験優等賞受賞
明治十九年十二月 進級試験

初等科第一級 優等賞受賞
明治二十一年四月 三郡奨励試

験最優秀賞受賞(北条尋常小学校
第四学年生)

明治二十一年七月 北条尋常小
学校卒業

明治二十一年九月 周布郡新屋
敷村の小松私学校養成館に入学

(旧小松藩校の学舎を使用して
明治二十一年五月三〇設立した中

学校類似の私立学校で郡内の十二
歳以上の子弟が修学。修業年限四
年で、教授科目は英学・漢学・数

学)

明治二十四年六月二十七日 同
校第三学年終了

明治二十四年(明治二十六年
師範学校受験準備

その間にあって、「愛媛県尋常
師範学校規則」を筆写して受験準
備に備えた。又、二十五年四月に

書かれた先生の日々万事起集ノ
トに「東予周布水清之処之辺、蛙
鳴響々水田之裡 東山白雲居士

とある。

明治二十六年四月 愛媛県尋常
師範学校本科に入学(校舎は松山

市木屋町一丁目にあり修業年限四
年だった。

明治三十年三月三十日 愛媛県
尋常師範学校本科卒業(同期生

十六名)
小学校本科教員免許状取得。卒

業論文「小学校」
明治三十年四月 小松高等小学

校奉職(学校は四ヶ村組合立で、
明治二十六年許可。修業年限四年。

尋常小学校に高等科併設に伴い明
治三十四年廃止。)

俸給：明治三十一年 二俸給
十円(現十二万円程度か?)、同

年 五俸給 十一円
明治三十年五月十一日 松山市

第十旅団司令部で徴兵検査、甲種
合格

明治三十年六月一日 松山歩兵
第二連隊第十一中隊六週間現役
兵

明治三十三年九月 東京高等師
範学校英語専修科入学(専修科は

特別に必要な時に設けるとされ
る。)麹町区永楽町第二校舎南寮

に入る。
(学資：明治三十三年九月(三六

年三月計四百七円 だった。)

明治三十五年十月 長野・前橋・
宇都宮・福島・仙台・水戸の中学

校等を参観
明治三十六年三月三十一日 同

校卒業 中学校等の師範学校・中
学校・高等女学校教員免許状取得

明治三十六年四月 大阪府立堂
島高等女学校に奉職(学校は明

治十九年に大阪府師範学校女学科
から独立した大阪府女学校が五回

目の改称で府立堂島高等女学校と
なる。現大手前高校)

俸給：四十円
合田先生にとって、左記のよう

な運命的な出来事があった。
明治三十七年一月 菅李太郎

(従弟、父新平の兄菅弥作の次男
が渡米。ハワイ ヒロペペエケオ

から明治三十八年にはカリフォル
ニアへ)
明治四十一年 原勝代と結婚
「我等は去三十九年五月九日を以

て京都に相見えて依頼、東西遠く相
別れ(妻勝代は東京小石川にて修
学)各後日の為に勉むる所あり
しが、漸く三年日月を閲したる今
日共に具に家を形ちつくるに至れ
り(日記より)

これには先生との運命的な出会
いをした郷里多賀村長福寺住職
から南禅寺管長となった霧海和尚
の仲介があった。
明治四十五年二月 菅李太郎一
時帰国

李太郎氏滞在中に先生は渡米の
ことを相談する。また、篠原助市
(亀太郎先生の愛媛師範一年後輩、
東京高師教育学教授)とも相談し
ている。

大正二年(一九一三年) 菅李
太郎帰米 (Platteville Colorado)
大正五年四月一日 日仏協会付
属神戸仏語学校卒業

大正五年十月 渡米 (c/o Mr.
R. Ninomiya, 1773, Sutter St.,
San Francisco, California 〇ち
P.O.Box 135, Florin, California
こ)

渡米に際しては、妻勝代と長男
を日本に残し単身渡米した。
大正六年 Utah University入
学。(P.O.Box 943, Salt Lake
City, Utah)

大正九年六月 卒業(Bachelor
Degree)

of Arts)

大正九年十月 Columbia

University (Graduate Faculties-Master of Arts) 入学

大正十一年六月七日 卒業

(Master of Arts)

大正十一年六月三十日 在米大使館囑託

大正十二年八月二十日 辞職

以降、英国に渡航

同年八月二十七日以降の渡航先は、フライデルフィア、ボストン、サザンプトン、ロンドン、オックسفオード、スタンフォード、マンチェスター、リバプール、エジンバラ、グラスゴー、ウエストミンスターバンク、パリ、ブリュッセル、ハウグ、ハノーバー、ベルリン、ウイーン、ベニス、フロレンス、ローマ、ナポリ、キャッツ、ベルン、ジェノバ、リオン、パリ、マルセイユ、ポルトサイド、コロンボ、シンガポール、サイゴン、香港、上海、そして神戸港に。

大正十三年五月七日 帰国

大正十三年十月〜大正十四年五月 外務省勤務

大正十四年四月三十日 文部省

普通学務局社会教育課囑託

論文「米国に於ける農村教育の

一斑」(社会教育)、「チェッコス

ロバキアに於けるソコル体育祭」

(文部時報)、「博物館と学校」(社会教育施設としての博物館)、「ラ

ジオの教育的利用」(社会教育)、「伊太利に於けるファシスト教育」

「各国の成人教育施設概観」(教育)、「チェッコスロバキアに於ける

ソコル体育祭」「米国に於ける農村教育の一斑」(都市問題)

大正十四年七月〜大正十五年三月 月帝国女子専門学校勤務

昭和五年十月四日(一九三〇年) 東京高等師範学校教授(英語)。

前記帝国女子専門学校囑託併任

昭和十二年九月三十日 退官

昭和十二年九月三十日 文部省

教学局(外局)囑託

他に普通学務局・社会教育局・

図書局・宗教局、教育調査部があった。

昭和十七年十一月十一日 文部

省教学局囑託(組織改正(内局化)に伴い)

昭和二十年十月 帝国女子専門

学校教授

昭和二十一年三月三十日 文部

省大臣官房宗務課囑託

昭和二十三年 論文「アメリカ

の社会教育」発表

昭和二十七年七月三十一日 宗

務課囑託辞職

昭和二十七年九月 相模女子

大学教授

(参考：明治二十四年帝国女子専門

門学校開設、昭和二十四年相模原

市に大学開設(学芸学部国文学科・

食物学科)、昭和二十六年短期大

学部開設(国文科・家政科)。なお、

短期大学英文科は昭和四十一年、

学芸学部英米学科は昭和四十二年

にそれぞれ開設)

昭和二十八年三月 同大学辞職

昭和二十八年四月 三五教顧問

昭和二十九年四月 世界宗教会

議出席

昭和二十九年七月 世界宗教会

議役員 辞

任

(昭和三十五年十一月 尿閉塞

を患う 昭和三十六年十月初立腺

肥大で昭和医大病院に入院)

昭和四十四年二月十日 死去

(享年 九十三歳 格外了機居士

八王子広園寺に埋葬される。)

【後記】

愛媛師範卒の先輩には、立派な

方が多いが、今まで皆に「知られ

ていない、知らされていない」立

派な方もいらっしやるのではない

だろうか。そのお一人として、こ

の度、明治三十年卒業の、「合田

掲載させて頂いた。

合田先生は、当時在京していた

大勢の愛師同窓生に対し、献身的

にお世話をされたという。

現在、仙台市にお住まいの、愛

師昭和二十三年卒、元東北福祉大

学社会福祉学部教授 越智猛夫先

生がいらっしやる。越智先生は愛

師卒業以来、東京にて約十年間、

合田先生と同窓の先輩後輩として

深い絆で結ばれ、公私共々親身に

お世話頂いたという。また、合田

亀太郎先生の甥の方で、合田昌文

氏(東京大学卒 金沢国税局長を

経て昭和四十七年小規模企業共済事

業団理事、昭五十二年宇宙開発事

業団理事、昭五十七年資源環境観

測解析センター監事、平成七年勲

三等瑞宝章叙勲)がいらっしやっ

て、合田家祖先活躍の歩みを丹念

に調査され、それをまとめ「中世

合田氏の跡」という本を出されて

おり、氏と越智先生とのご交流の

中、その資料を越智先生を通じて

頂くことが出来た。

合田家は、昔伊豫市中山町の地

頭職をされていた。地頭合田

通基を中山町の梅原の「三島神社

の鳥居に刻まれた文中にある「中

山行進曲「合田天山垣生城址 英雄墓は苔むしぬ」があり、私が

い出した。

合田亀太郎先生はその子孫であ

り、甥の合田昌文氏もその一族の

お一人でもある。

その資料をご送付下さった越智

教授、そして、それを整理して会

報へ発表の仕事をして下さった菅

田同窓会常任幹事に深く感謝して

いる次第である。

師範学校の校歌の一節にある

「群小あだに消えうせて 巨人の

跡ぞ知るかりし」にある一人の巨

人が浮かび出て、この巨人を同窓

の皆様知って頂く喜びで一杯で

ある。

内田 守弥(昭十六卒)

祝・叙勲

(平成二十一年十一月三日)

☆瑞宝双光章

教育功勞 河野 寛一 殿

八幡浜市保内町喜木一番耕地

昭三十五年卒

教育功勞 石丸 淳 殿

松山市太山寺町甲五一二一四

昭三十六年卒

上岡治郎と和田重次郎



和田重次郎顕彰会 監事

仁木 省三

(昭二七卒)

はじめに



和田重次郎顕彰碑

右の写真は「和田重次郎顕彰碑」で、重次郎が育った日の出町の河川緑地公園に建っている。

この顕彰碑は、故上岡治郎先生が「重次郎の偉業を後世に伝えたい」「重次郎を世に出したい」と立ち上げた事業によるもので、その永年の念願がかなって平成十九年（二〇〇七年）九月三日、盛大な落成式にこぎ着けることができた。

設置した碑は三基。中央が野本利一氏の筆による顕彰碑で、左右に「オーロラに駆けるサムライ」「終生母親に孝養を尽くす」と記している。西側に県美術会会員の

藤原白男さん（今治市在住）が製作した胸像、東側に重次郎を題材にした小説である「犬糧使いの神様」を書いた新田次郎の文学碑を配している。



顕彰碑3基

除幕式で上岡会長は「日の出町だけでなく松山、日本の誇りである重次郎を多くの人に知ってもらい、米国やカナダとの国際交流につなげてほしい」と挨拶、中村時広市長や八倉町内会長、重次郎の兄の孫に当たる和田利百さん（内



神事の様子



除幕式（右が初代会長 上岡治郎氏）

子町在住）らが除幕した。

また、拓南中学校吹奏楽部の演奏で素鷺小児童や参列者が「ふるさと」を歌い、出席者は郷土出身の偉人を通じ、故郷を思う気持ちの大切さを実感していた。

では、上岡治郎と和田重次郎の接点にふれてみることにする。

「まつやま 人・彩時記」より

元松山市立素鷺小学校校長、伊予



列席者（右から二人目は現会長 土居貴美氏）



拓南中吹奏楽部の皆さん

史談会会員であった上岡氏は、松山市文化協会が発行している「季刊・文化情報松山 きらめき」の連載の第一回（一九九七年秋号）に、「和田重次郎とその母セツ」と題した文章を寄せている。以下、引用。

和田重次郎を追って

和田重次郎は私にとって、まぼろしの英雄である。

私が素鷺小学校四年生（昭和十年）の時、日の出町で蚕種製造販売業をしていた父が、ある日のことぼつりと言ったことがある。「この町に、明治時代アラスカに渡って成功し、毎年、アラスカから手紙と、お金を送って来る親孝行者がいたんだよ」と。



1908年（明治41）6月5日付シアトルの新聞に掲載された和田重次郎（35歳）

この話を聞いてから四十六年後の昭和五十六年四月、私は母校素鷺小学校に勤務することになる。そして「地域に根ざす教育」をテーマに研究に取り組むことになり、素鷺校区の地域教材を収集する過程で、『和田重次郎とその母セツ』を知り、少年の日に父が話してくれた思い出とつながる。

自分の生まれた町に、こんな大冒険家で、母親想いの優しい人物が居たんだという思いは、郷土への誇りとなり、次の四冊の本を読むことよって更に深まる。

●アラスカ・最後のフロンティア 東 良三著 昭四八・七発行

●アラスカ物語

新田次郎著 昭四九・七発行

●犬糧使いの神様 (短編集)

新田次郎著 昭五〇・五発行

●人物探検・和田重次郎 (雑誌)

谷 有二作

「山と溪谷」昭五四・三月号

そして学校退職後、ふとしたきっかけで、重次郎の兄平太郎の孫に当たる和田利百さん(内子町在住)と知り合うことになる。

なお、この和田家は重次郎の母セツの最期を看取った家であり、現在も重次郎に関する貴重な資料が残っている。(以下略)



重次郎の母セツ

資料「『和田重次郎顕彰碑』の建立を願って」より

顕彰会を組織して会長となった上岡氏は、資料の中で、自身の生い立ちや顕彰碑建立にこぎつけるまでの経緯を紹介している。以下、引用。

一、今も耳に残る亡父のことば

私は生まれて六日目に、母が亡くなり、温泉郡の田舎に里子に出された。私が、故郷の日の出町に



帰ったのは、昭和十年四月で素鷺尋常小学校四年生に転入した。

私に対し、何かと気を使ってくれた。そのような話をしてくれた。

「この町には、外国で働いて成功した人が居ってな、母親にお金や、励ましの手紙を送ってきたんぞ。」

又、父がしみじみとした声で、

「いつかお前は、素鷺小学校の校長さんになって帰っておくれ。」と言った。しかしその父は私が参

川西小学校の校長として赴任する二年前に、あの世に旅立ったのである。(享年九一才)

二、母校の校長となる(校長歴二校)

①上浮穴郡参川西小学校校長(三年在職)(以下略)

②松山市素鷺小学校(五年在職 昭和五六年四月〜六一年三月)

素鷺小学校は、私の母校であると共に、教員生活四十年の最後の仕上げをした大切な学校である。

三、「和田重次郎の研究」に着手

昭和五六年四月、亡き父の願い通り母校「素鷺」の校長になった私は、早速に①校区の歴史の研究

②郷土の偉人の研究に全職員で取り組み、「ふるさと素鷺」(三九〇ページ)を刊行する。また、この頃から左記のお二人と親交を持つ。

① 内子町の和田利百氏を知る



内子町に住む利百氏は、和田重次郎に関する貴重な資料を守っている。

② 作家の谷有二氏を知る



宇和島出身の作家で、新田次郎に依頼されて、「和田重次



平成7年(1995)5月10日発行 発行所「山と溪谷社」(定価1600円)

郎の研究」に取り組み、その成果を発表している。

四、愛媛新聞に載った二つの記事

① 平成一八年八月二八日付(重次郎の記事)

② 平成一八年九月六日付(取材最前線)(記事は 略)

五、顕彰碑の石材を入手する

① 努力してくれたお二人 山本勲生氏と越智利明氏 (記事は 略)

② 入手した石材を見に行く(平成十八・九・二九)(写真 略)

六、顕彰碑建立の夢は広がる 私が素鷺小学校校長であった五年間、最も努力したのは、校区出身の偉人の顕彰であり、その先人の生きざまを子どもに学ばせることであった。そしてその一人、和田重次郎顕彰碑建立の夢が、今、現実のものになろうとしているのである。ああ、うれしい哉。

おわりに

顕彰碑の落成を見届けた上岡先

生は、同月二十六日に急逝された。石手川の碑の前に立つと、熱い思いで建立に尽力された先生のことばが思い出される。

私の知る先生は、郷土資料の発刊など地域に根ざした創意ある教育を実践、退職後も歴任校の求めに応じて子どもたちに昔の遊びを教えたり、せせらぎ読書会などの生涯学習の講師を務めたりされた。さらに、愛媛大学同窓会報に連載三十一回を数えた「愛媛県教育史」はあまりにも有名である。



新田次郎文学碑

先生を慕う人々は多く、新田次郎文学碑の裏面に「教え子と父母そして先生方と共にこの文学碑を建立する」と記された文言からお人柄と人脈の広さが偲ばれる。

顕彰碑三基のすぐ西隣には正岡子規、五百木飄亭の二基の句碑があり、先生は、「将来は、句碑公園にしたい」と話されていた。



同期会

全員米寿に向う

愛媛師範

二十二年卒同期会



石丸 保
(昭二二卒)

期日 平成二十一年十月二十二日
場所 松山市大街道伊予鉄会館
出席 二十九名
菊の馨り高き十月二十二日、二十二期生の第二十四回同期会が開催された。

二階ロビーの受付に向う友の第一声は「おい元気」と健康の確かめ合い、更に「なにしとる」近況報告等々、友愛の握手を交す友、名札を胸につけて足は自然と写真台に向っていた。

定刻十二時カメラマンのリードで記念撮影
青春の姿と胸を張った。

光田比公 幹事の司会進行で、恩師・同期の物故者に対して黙祷を捧げる。静粛に



て感慨無量であった。

続いて、上原勲会長の挨拶、遠来の友の参加を祝福、級友の動向は毎日の新聞で見えていた。特に今日は、元気な二十九名の同志の顔が見えてよかった。卓上のよき料理をゆつくり食べ、ゆつくり飲み、そして、ゆつくり語り、元気を分かち合い、ゆつくり米寿に向って坂を登ろうと呼び掛けた。

会長の「ゆつくり」の言葉は、八十歳歳の労をねぎらい、今年も会えてよかったと毎年思えるように頑張ろう、といったわりと激励のことばであったと思う。

例に従って校歌斉唱（近藤隆光君指揮、伴奏白上正君）「行方も知らず流れ去る」いつ歌っても心に響く歌詩、近藤隆光君のタクトに集中し、「動かぬ勇姿徳べ人」まで一氣に歌いあげる。

光田比公幹事の経過報告

平成二十一年十月現在、名簿人数二二八名（死亡一〇六名）内本年度死亡七名、出席二九名、死亡は右肩上りの曲線、出席者は年を重ねる毎に減り右肩下りの曲線。この現象はやむを得ないと思う。本日の病欠欠届けのあった殆んどが病状報告、回復を祈るのみである。

続いて待望の宴会、広島から足



を運んでく

れた、豊嶋陸君のリードで、皆さんのご健康とご多幸を祈念しての力強い乾杯の発声、冷たいビールがのどを越した瞬間緊張がほぐれ、おいしかったと言わんばかりの表情で拍手。

アルコールもそこそこ回れば、どのテーブルも盛り上って来た。酒瓶を片手に消息を尋ねる友、表紙の白亜の塔を見ながら、藤谷先生のご指導のもとよく写生した、雑巾掛けにも行った、廊下は黒光をしていた、明治の建造物とは思えぬ程、威風堂々とした姿であった等昔しを偲ぶ姿は、何にかで見つれて再び近づいてくるものようだ」こんな感じを深くした。

またたく間に十四時いつものように「近藤隆光君指揮、白上正君伴奏」のもとに「あ、紅いのは燃ゆる」を力強く歌いあげる。

最後に東京から馳せ参じた谷口敬君の力強い発声で、今年も会えてよかった。来年も会えるように頑張ろうと約束し、万才三唱、友は北へ南へと名残をおしんで会場を後にした。

光田比公幹事より、事前に同期会の記念品として、澤田大暁先生の色紙「無一物」を送付頂いた。



先生のありがたい格言と思っ

る。欠席した武田敏文君、白石衛君より、二十二期会のますますの発展と、同期生の健康を祈念して、ご芳志を頂き深謝。

本日の会を終始お世話頂いた、光田比公幹事に感謝とお礼を申し上げ措辞簡単ですが二十二期会の報告とさせていただきます。

794-0055

今治市中日吉町 三二二一十二

青玄会 総会について



安永 眞敏
(昭二六卒)

毎年一回、開催しております青玄会総会を平成二十一年度は例年通り文教会館で実施しました。

青玄会員とは、昭和十六年三月愛媛師範学校本科一部を卒業した六十九名であります。

其の後の状況では、平成十一年度の青玄会総会時の現状は、戦死者十五名、病気等で死亡された方十三名、合わせて二十八名。した



がって会員数は四十一名となっております。その後今日までに三十名の方が亡くなりましたので現在は二十四名となっております。

今年度総会出席者は七名、昨年度は十一名、一昨年度は十名でした。これらの事をふまえて出席者の話し合いで、総会は本年度限りとして今後は実施しないと決定いたしました。併しながら何かと青玄会を開催しなければならぬ事態が生じる事も考えられますので、今後安永が会を総轄しますが、懇親会だけは自由参加で世話人は越智強氏を満場一致で推挙しました。

改めて会員の皆様にお伝えします。毎年一回開催しております「青玄会総会」を今年度を最後といたします。



関東 昭王会の集いから

伊藤 始

(昭二〇卒)

昭和二十年卒業、東京支部の二十七回会合は、〇九年五月三十一日品川区内の「食彩・蔵」で行われた。開会に先立って菊池巧君の「世界一周船の旅」の報告があった。彼は過去二回、それぞれ約三か月かけて「地球一周クルーズ」に参加し、諸外国を視察・見聞したのである。それを七ページの冊子にまとめてくれた。

「長時間、鳥影も船影も見ないことがある。なんとなく地球の丸さを感じる。日の出、日の入りが美しい。(中略)満天の星はみごとしか言いようがない。」

トビ魚が跳ぶ。イルカの群れにも出会う。海の色は海域によってちがう。時間によってもちがっている。「(大海原)の項」

このように珍しい話、おもしろい話、国民性や民族による考え方や風習の違いなど、参考になることが多かった。

特に印象深かったものの一つに「貧民キャンプ」がある。「放映される映像は、一応まじなテント村であるが、現実はおつとひどい。木や竹やトタンを拾い集めて小屋をつくり、そこで暮している。雨露をしのぐのがやっと。時には雨露もしのぎか



「走って、走って、三十年!」だ。どんな話がとび出すか、お楽しみに。三時間半の会を楽しんだのは次の人々。

ねる」が、彼らの顔は明るく、子どもたちには手作りのおもちゃで遊び回っている、という文にほっとする。

次に「地球は一つ」という項目では、人間は「宇宙船地球号の乗員である。ほかに乗り移って住める所はない。だから、お互い理解し合い助け合うことが必要」だと言い、国際理解は、その国の人とじかに交わることだ、と結んでいる。体験に基づく説得力のある意見である。

「日本の良の再発見」の項では、外国に誇れる、日本独特の優れた文化がある、など、彼の高い見識をうかがわせる十一項目があげられている。

なお菊池君には、「折々の記」という手書き印刷で百ページ近い冊子がある。年刊で今年四号だ。

郷土の伝統的行事だった、「芝居」や「活動写真」、「利尻・礼文フルムソンの旅」などの旅行記、「北京オリピック」などの時事問題、「波郷の旧蹟を訪ねて」や「日の出、日の入り」の調査研究など、一年間の多彩な活動の記録が収録されている。彼の、衰えをしない向学心に感動を覚えるとともに、元気を与えてくれる冊子である。続刊を期待してやまない。

次回の報告は二宮一君の、「走って、走って、三十年!」だ。どんな話

愛媛から池川啓司、菊池巧。関東は兼頭吉市、首藤敏、永井恒男、深見清春、伊藤始の七名の皆さんである。(今回は、懇親会の様子を省略して、菊池君の報告を中心にまとめてみた。)

平成二十一年度の「二五師会」

山上 巨子



(昭二五卒)

「二五師会」とは、昭和二十五年愛媛師範学校卒業同期生の名称。今まで数十年にわたって、毎年一回同期会を開催し、旧交を温め、なつかしい集いを実施している。

幹事役は、県下を東予・中予・南予に三区分けし、持ちまわりにして各地域へ出かけ、郷土料理を楽しんだ。現在は、毎年松山市内で開催し、幹事役のみ輪番で担当している。本年度は南予、宇和島地区の人たちが当番を担当。山下恭喜さんを中心に、稲葉茂義・善家徳雄・中川年子・長尾知子・石本節子さんたちが幹事役だった。

開催日 平成二十一年九月二十九日
会場 道後「はなゆづきホテル」出席者 四十八名
十一時受付開始。

「やあ、やあ元気だったか。」と握手、肩をたたく男性たち。「お久しぶり。」と抱き合う女性たちの姿も。挨拶もそこそこ早速、に

ぎやかに会話が弾む。定刻十一時半、記念写真撮影。その後、クラス毎に決められたテーブルに着席。はじめに、物故者八十名の冥福を祈り黙祷。

続いて、稲葉さんの開会挨拶。「遠路はるばる関東・関西・九州からの参加者にお礼。本日は、一年に一回の二五師会だから、久しぶりの再開を飲み、楽しく過ごしてください。」と歓迎のことば。

乾杯の音頭は山内良正さんの力強い発声「二五師会に乾杯。」懇親・懇談が始まる。飲み放題のため、ビール・酒・水割・ジュース……自由に手に取り、料理に舌づつみ、趣味・特技・健康・孫のことまで話題は多種。しゃべって笑い、会えて飲み、学生時代の思い出話しまで飛び出すテーブルもあり、昔話に花を咲かせていた。

どの顔も長い教職の道歩んできた貫禄のある顔。とても八十歳前後の年齢とは思えない。いつものことながら、浜田寛さんと武田恵子さんが昨年の二五師会のスナップ写真を配布。橋元トヨ子さんは、手製の民芸品を全員にプレゼント。心のこもった贈物に感謝。

制限時間の二時間は、またたく間に過ぎ、二五師会も終わりに近づく。

佐々木千恵子さんの指揮によって「紅葉・故郷の空・ふるさと」を全員で合唱。さすが教員OBの集まりだけあって、よく揃った歌声が響いた。

次期開催の担当は東予。今治代表の渡辺俊弘さんが「おたがいに健康を保ち、来年も一人でも多く是非、二五師会に参加してください。」と挨拶。万歳は池川敏幸さん。「来年も



元気で会いましょう。二五師会、バンザイ!三唱。

続いて菊池勝さんによる慣例の3・3・7(ナナ) 拍子の拍手。菊池さんの身振りに合わせて、3・3・7なつ続けて三回手を打ち、オール拍手、会場はすっかり盛り上った。

最後は善家さんによる閉会挨拶。「本日は、大勢の同期生に会えて本当に嬉しかった。僅かな時間でしたが、和やかに楽しいひとときだった。また来年も再会できることを願っている。皆さん、お体に気をつけて、お元気で。本日は遠方から多数の参加をありがとうございました。」と締めくくった。

散会後は、ホテルで用意された送迎バスに乗って、松山市内の中心方面へ移動。会場を後にした。事情により本日出席できなかった同期生の健康と幸せを念じつつ、来年は一人でも多くの級友の集まりを願っている。

宇和島地区の皆様、幹事役をご苦労でした。大変お世話になりました。ありがとうございました。

今、教育に思うこと

新採二年間の

思い出記



小野植元幸
(昭二九卒)

昭和二十九年四月一日「喜多郡満穂村立石畳小教諭に任命する。」現内子町立石畳小着任。現内子町内子分庁より約十二キロメートル。僻地一級、私鉄バス一日三便。交通手段は徒歩か自転車、道は狭くでこぼこ地道。児童は百七十五名。当時の新採は、三年か四年担任が普通。当時としては、他校にない十二名の四年担任。教員七名で単級。養教、事務員、用務員なし、これらの仕事は、教員同士がカバーした。

当時は、戦時中の国策として「産よ殖えよ。」で、各戸に子供がいたというほど多く、教師不足のため、旧制中学、旧制女学校、高校卒業生が代用教員で補っていた。そのため卒業すると就職ができた。現在、全校生十一名のため、学校統合が話題になっている。新

採は、僻地が普通で、三、四年勤務すると交通の便のよい所へ転任していた。

着任一か月後、校下の青年団に加入。約八十名の団員と交流することができた。農村では、青年団が核となり地域行事を実施。当地は、青年演劇が盛んで、練習場所に学校開放。夜間練習で夜遅くまで、職員室で、薪ストーブ（達磨型）で天井に炎がつかえるほど燃やし、児童のこと、青年の考え方を語り合い深夜までおつき合いました。県演劇コンクールで優勝し東京大会まで行った。

村内三校区（河内、論田、石畳）対抗、青年団陸上大会があり、リレーに参加。他校区団員と交流を深める場となった。

秋には、団員一日研修旅行で北条の鹿島へ親睦を通して、校区の実情や願いを聞き、児童教育に役立った。

五月、母の日を記念しての一日。午前授業参観。午後は、ミニ運動会。秋季運動会は十月。地方祭の翌日に実施するのが恒例。お祭りの残り物が弁当にできるといいう理由で、他校も同じだった。

学芸会は、厳寒の二月実施。音楽、舞踊、劇が、各学年の種目決定。劇の脚本選びに一苦労。他校の脚本を利用したり、ない場合は松山の本屋までさがしまわった。体育館がないため、各教室のしきり板戸をはずし、舞台は、教壇を利用し準備に半日。当日は、親戚までも参観し大盛況だった。

教育熱心な村で、当時衆議院議員（大洲市、喜多郡）が二名輩出。その一人現神奈川大学創立者米田吉盛先生、苦学をして次代を背負う人材育成に貢献。内子自治センタに記念公園ができ（内子町名譽町民）、町内の児童の指標として胸像建立。

現在、石畳地区は過疎化、少子化のため村おこしに住民総力で推進。村並博物館に見たて、地域の遺産を掘り起し「石畳の宿」「弓削神社」「しだれ桜」「牛ノ峰祭」。十一月三日水車祭りを開催し、交通不便だが、観光客が訪れるようになった。先人の遺産「石垣」が、屋敷や川の堰、田んぼ等に残り、袋口地区の旧上田家の高垣は、平成十八年国登録有形文化財に選定されて見どころがあり、一度訪問してほしいものである。

791-3351 喜多郡内子町五百木
一五四

放送大学四月入学 生募集のお知らせ

放送大学では、平成二十二年四月入学生を募集中です。

放送大学は、テレビなどの放送を利用して自宅で学べる通信制の大学です。

放送大学では、心理学・福祉・文学など、幅広い分野を学べますが、同窓会員特に現職の方々は、次に掲げる教育関係の免許資格取得などができます。

- 放送大学の大学院を利用して、**専修免許状**の取得が可能です。
- 放送大学の科目を利用して、**特別支援学校教諭免許状**の取得が可能です。

○ 放送大学の科目を利用して、**司書教諭資格**の取得が可能です。

○ 放送大学の講習を受講して、**教員免許更新**が可能です。

資料を無料でさし上げております。お気軽に、**愛媛県学習センター**にご請求下さい。



放送大学

知識が人生を変えていく
一科目からでも学べます

平成22年度4月入学生募集中!
(平成22年2月28日まで)

愛媛学習センター
(愛媛大学内)
TEL 089-923-8544

学部トピックス

「坂の上の雲」のまちづくり

シンポジウムを開催

平成二十一年十一月二十六日（木）に、「松山市長と愛媛大学生が松山のまちづくりについて語る」をテーマに「坂の上の雲」のまちづくりシンポジウムを開催しました。

シンポジウムは、法文学部学生の司会で、柳澤康信学長による開会挨拶の後、佐藤栄作教育学部教授が「幻の松山方言」～『坂の上の雲』の松山ことばから～と題して、「坂の上の雲」に出てくる「なもし」等松山を代表する方言について、具体的に例を示しながら講演しました。

続いて、宮崎幹朗地域創成研究センター長を司会に中村市長と学生五人による「坂の上の雲と観光まちづくり」をテーマにしたパネルディスカッションを開催しました。法文学部三人、教育学部二人の計五人の学生が、リピーターを増やせるような観光客誘致の方策、若者が主体的に取り組み「ま



佐藤教授の講演

ちづくり活動」等具体的な提言を行いました。これに対し、中村市長から、「坂の上の雲」への想いを込めた熱の入ったコメントをいただき、学生、教職員、一般の方約百二十人の参加者は、NHKのドラマが始まる直前ということもあり、熱心に耳を傾けていました。「地域にあつて輝く大学」として、松山市のまちづくりに愛媛大



中村市長と学生5人によるパネルディスカッション

学がどのように協力していけるかについて考える良い機会となりました。



タイ国から“憧れの愛媛大学教育学部”へ三名の留学生

留学してまもなく、始めて日本の春を満喫、それも美しい桜を観て非常に感動したそうです。多忙を極める大学生活の中にあつて、松山城に登って古い歴史文化に触れたり、道後界隈を散策して温泉街の雰囲気を楽しむたりと、限られた時間内ででき

平成二十一年三月、愛大教育学部に、タイ国から優秀な学生さんが三人揃って留学してこられました。スラッサワデーさん（写真中）タナーウイットさん（写真右）シッテイチョークさん（写真左）からお話を聞きました。留学するに当たって、愛媛松山は東京のような大都会ではとイメージをしてきましたが、緑に囲まれた落ち着いた町の佇まいにほっとしたそうです。



るだけ日本文化に触れ、将来日本の教育との架け橋となる礎になりたいとの思いで一杯だそうです。自国にあつては、大学で日本語の勉強をしていますが、日本語には「カタカナ、ひらがな、漢字」があり、大変苦労しているようです。しかし、こちらに留学してさらに一層日本語の実力を付けるよう日々努力をしている姿に、将来母国を背負って活動しようとする心意気、強い意志を感じます。タイの教育システムは日本と変わりますが、ただ大学における教育学部では、教育に関する学習に四年、その後教育実習には一年と計五年をかけた後、教員になっていくそうです。

寄贈本・資料



「第二教育勸語を
夢見る秋山好古」

寄贈者 重見 法樹
著者 重見 法樹
B5版 二五四頁
発行者 中田 典昭
発行所 東京図書出版会



重見 法樹
(昭二五卒)

いよいよ始まるNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」が放映が始まりますが、できるだけ重ならないように、日本社会の思想に内在するアーキタイプ（かくれた形）から見た秋山好古像に迫ってまとめていたら、それと前後して友人から次のような感想文が寄せられましたので紹介して見ます。

〈友人からの感想文〉

『貴兄が論文の中で話題にした貴族Ⅱ西園寺氏の名は、私が幼い時よく遊んだ富士川の対岸に公の別邸があったから知っています。その公が加藤恒忠と秋山好古と共

に教育勸語一本では子ども的人格を育てるには物足りない。もつとリベラルな、「改良が必要」と、加藤・秋山等と共に第二の勸語を起草に取りかかったとは驚きでした。しかも、この二人は松山に帰るや加藤は松山市長に好古は一私立中学校長に転じ、協力して私立北豫中学校の講堂を日本全国初の県会議会を開かしめる等の快挙を市民に見せー市民像の誕生を促し、青年の自立を呼びかけたのです。きつと、私の父（感想文）も若しかすると、この当時、愛媛出身でないかと、その雰囲気からすると思っ——偶然、履歴書を見る機会があり、案の定、北豫中学三年生編入と書いた字が飛びこ

期に傷つき独学で北豫中学校に編入し重見さんのおっしゃる「態度価値」を心化した陸士卒の軍人でした。私（感想文）は、そんな父親が大好きでした。そして、部下を戦争で殺さなかったのも、加藤、秋山の「態度価値」の継承にあったのではありませんか。しかも、この平和への種は、重見さんの紹介するように——生存のための多様性を肯定する若者を育てていき——市民性を認める思想でもあったのですから、今日の、憲法の卵であったと言っても過言ではありませんよね。これが、瀬戸内海の出口の伊予国（西園寺家の世襲的知行國）の海人文化の歴史的な（馬・船・常民）囁やきだったのです。重見さん、よい勉強になりました。故・父も久し振りに帰り『坂の上の雲の上』で、平和の大切さを語ってくれるでしょう。（友人から）

突然で恐れ入ります。今回、父の遺品の中から「卒業アルバム」が出て参りました。保存してもと思、処分しようと考えましたが、父の母校でもある愛媛師範学校・愛媛大学教育で何かのお役に立つことがあればお送りしたいとの思いに至りました。

アルバムは少し破れたり、



卒業アルバム
八月夏休み後半の二十四日。同窓会本部に、八幡浜市にお住まいの梅岡智子様から、次のようなお手紙が届いていた。

落書きなどがあります。
父梅岡重平（旧姓 濱本）は、大正十三年愛媛県師範学校卒正十四年三月二十日所有
父は、今年九月で三三回忌を迎えます。
もし不要でしたらお返事はいたただかなくてもかまいません。
お手数をお掛けしてすみません。

文中に電話番号も書かれていたので、早速梅岡様にお電話した。アルバムは九月一日付をもって、同窓会本部に、ゆうパックで届いた。

そのアルバムには、当時の師範学校や附属小学校の佇まいや生き生きとした学校生活の様子が写っていて、感慨深いものがある。



浅賀校長

敬 弔

(物故会員)

21・8・2	21・7・27	21・7・22	21・7・18	21・7・17	21・7・12	21・7・10	21・7・7	21・7・6	21・7・5	21・7・2	21・6・30	21・6・29	21・6・29	21・6・28	21・6・12	21・6・12	21・5・6	(死亡年月日)	
三井 明夫	酒井 アキヨ	兵頭 慎太郎	松田 茂	平岡 満正	長尾 金満	本田 清俊	宮城 恵久	越智 正	上岡 功	宮崎 勝政	松田 直子	横田 照夫	白石 ミツ子	山下 四郎	千葉 孝利	小田 忠幸	吉本 君男	(氏名)	
21・10・27	21・10・27	21・10・26	21・10・22	21・10・18	21・10・6	21・10・5	21・10・1	21・9・23	21・9・22	21・9・20	21・9・16	21・9・6	21・8・23	21・8・20	21・8・16	21・8・8	21・8・7	21・8・5	21・8・2
稲田 正男	加藤 教明	阿部 勉	星加 清	喜多川 辰雄	泉 敏	河野 基繁	児玉 和久	熊本 光榮	加藤 香	水野 敦子	庄司 佳宏	中山 久志	近藤 一郎	世良 孟	越智 勇記	村上 キヨノ	丹下 紘	長岡 百合子	二神 日満男

【お詫びと訂正】
 108号掲載の
 20・3・25 高市 キヌエ様は
 誤りでしたので謹んでお詫びし
 訂正いたします。
 高市 キミエ様の

21・12・3	21・12・3	21・12・1	21・11・26	21・11・22	21・11・17	21・11・16	21・11・16	21・11・16	21・11・15	21・11・14	21・11・12	21・11・3	21・11・3	21・10・31
河野 穆	高石 悦夫	玉井 伸夫	青木 正則	塩崎 陽一郎	本田 恵	垣内 一夫	矢野 光昭	坂本 邦住	濱田 定雄	村上 敏春	二宮 淳	井上 昌計	岩村 威	

原 稿 募 集

―次号 第一〇号―
 短くても結構です。多くの
 方々のお気軽なご寄稿をお待ち
 しております。

○「今、教育に思うこと」を
 特集しています。ふるってご
 投稿下さい。

★ 同期会や支部同窓会などの
 集会や活動について

★ 恩師・先輩・同僚の訪問や
 思い出について

★ 職場の近況や所感や活動に
 ついて

★ 文芸(随想・俳句・絵手紙・
 川柳・俳絵・短歌・詩等)に
 ついて

★ 会員便り
 1 旅行記 4 この頃思うこと
 2 季節便り 5 忘れ得ぬ人など
 3 教育雑感

※ 投稿が多数になった場合に
 は、編集委員会でご選ばせて載
 きますので、ご了承ください。

★ 原稿ノ切 四月三十日
 発行 七月一日 予定
 字数

★ 依頼者以外は千二百字厳守
 四〇〇字詰原稿用紙の一行
 を十五字にして書いて下さ
 い。

★ 写真
 筆者の顔写真を添付して
 ください。顔写真以外で内
 容に関連した写真もあれば
 送ってください。

会 報 送 料 ・ 寄 付 者 名

平成21年7月〜12月

森岡 政男	菅 真由美	石丸 澄子	武田 幸子	藤原 健	正岡 和夫	森岡 俊一	篠原 茂子	京口 和雄
-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------

【訂正】

会報一〇八号十八頁二段目三行
 と十一行にある、
 「師道鑽仰碑」(誤)
 「師道鑽仰碑」(正)
 四段一行にある、
 ☆愛媛教育草創之碑(石井南放)
 ☆愛媛教育草創之碑(浅海蘇山)
 です。
 お詫びし訂正します。

『愛媛大学開学六十周年記念』

国立大学法人愛媛大学の

「ブランドマーク」、
「ロゴタイプ」及び
「マスコットキャラクター」が決定

愛媛大学は、地域の学術研究の拠点として、松山高等学校、愛媛師範学校、愛媛青年師範学校、新居浜工業専門学校を母体として、昭和二十四年に新制国立大学として発足、今年開学六十周年を迎えました。

そこで、今回、開学六十周年を機に躍進し続ける本学の特色をアピールするとともに、地域の皆様により親しみを感じていただき、かつ、本学の学生、教職員、卒業生等本学関係者が、愛着と誇りを感じるができる「ビジュアル・アイデンティティ」（「ブランドマーク」、「ロゴタイプ」及び「マスコットキャラクター」）を制定することとし、平成二十一年六月二十四日（水）から八月二十八日（金）の間、全国公募を実施したところ、国内はもとより、海外からも多数の応募があり、応募総数七百八作品（「ブランドマーク」、「ロゴタイプ」三百七十六作品、「マスコットキャラクター」三百三十二作品）が寄せられました



「ブランドマーク」、「ロゴタイプ」
福原 基和様・兵庫県在住・グラフィックデザイナー



「マスコットキャラクター」
宮川 さやか様・長野県在住・主婦

このブランドマークは、「地域にあって輝く大学」を目指す愛媛大学が「愛媛の知の拠点（ドット・エヒメ）」となることを決意表明しています。また、左の円は太陽を、右のeは躍動する姿を、そしてその全体はすこやかに伸びていく新芽を表しています。愛媛みかんを連想させる黄色は明朗さ・快活さの象徴です。

「愛媛」という、画数の多い漢字をシンプルに見せるために、和文・欧文ともにシャープなフォルムで構成しています。

た。厳正なる審査を行うため、デザイン等を専門とする教職員からなる予備選考委員会において第一次審査を行い、次いで柳澤康信学長を委員長とする九月十五日（火）の選考委員会において最終審査を実施した結果、次のお二人の作品を最優秀作品に決定しました。



福原氏に表彰状、副賞を授与



記念撮影

十一月十一日（水）の開学六十周年記念式典にご出席いただいた福原氏に、表彰状・副賞を授与させていただきました。今後、「ブランドマーク」、「ロゴタイプ」及び「マスコットキャラクター」は、本学が学内外へ発信する全ての情報（ホームページ、各種出版物、封筒、名刺、大学グッズ等）に使用する予定となっております。

応募していただきました多数の皆様にご感謝申し上げますとともに、今後も地域の人々とともに考え、ともに行動し、「地域にあって輝く大学」として、皆様に愛され、皆様に誇りを感じていただける大学創りを目指します。

お知らせ

第十二回

愛媛大学教育学部
同窓会懇親会

が、
一日 時

平成二十二年

八月二十一日（土）

十二時～十五時

二 会 場

エスポアール愛媛

文教会館

（松山市祝谷町一丁目五の

三十三）

三 参加費

六千円

で開催予定です。

詳しくは、七月一日発行予定の第百十号同窓会報で、申込書を添えご案内致します。

同窓会員の皆様、どうか、お仲間をお誘い合わせ下さいまして大勢ご参加下さいますようお願い致します。